

F.C.C. Sustainability Report 2022

株式会社 エフ・シー・シー 2022年 サステナビリティ レポート

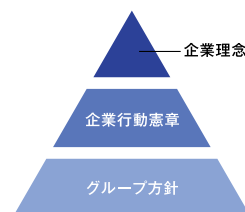


理念体系

FCCグループの理念体系

FCCグループでは企業経営の軸となる考え方を、図のように体系化しています。企業理念は「FCCグループがなんのために存在するのか」という存在意義を示し、更なる発展を志していくために定めています。

また、企業として社会の課題解決に必要な要素を国際規範・原則から抽出し、「企業行動憲章」「グループ方針」として制定しています。



企業理念

基本方針

わたしたちは、独創的なアイデアと技術でお客様に喜ばれる製品・サービスを提供することで社会へ貢献します。

行動指針

わたしたちは、

- ・安全と環境に配慮した企業活動を行います。
- ・独創性を生かして積極的に活動します。
- ・常に自己研鑽に励み、改革・改善を行います。
- ・スピーディーかつタイムリーに行動します。
- ・人の和を大切に、明るい職場をつくります。

企業行動憲章

わたしたちは、持続可能な社会の発展に向けて、自らの責務を継続的に果たしていきます。そのために、役員及び従業員は、法令を遵守し、高い倫理観のもと、8つの原則に従って行動します。

- 1. 製品・サービスの社会的有用性と品質**
社会と顧客に信頼される製品・サービスを開発、提供します。
- 2. 人権尊重**
企業活動を通じて人権を尊重し、人権侵害に関与・加担しません。
- 3. 安全で働きやすい職場**
働く一人一人の個性を尊重し、安全で働きやすい職場をつくります。
- 4. 適正取引**
適正な取引を行います。
- 5. 環境保護**
環境課題に主体的に取り組めます。
- 6. 情報管理**
会社内の情報を適切に管理します。また、広く社会とコミュニケーションを行い、情報を適切に開示します。
- 7. 地域貢献**
積極的な社会貢献活動を通じ、地域との共存共栄を図ります。
- 8. 企業統治**
本憲章をグループ全体に浸透させ、健全なコーポレートガバナンスを行い、本憲章に違反するような事態が発生したときは、原因究明、再発防止に努めます。

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて
環境マネジメント
環境教育とコミュニケーション
地球温暖化対策の取り組みの成果
省資源／環境負荷物質管理の取り組み
環境データ

社会

品質
取引先との関係
人材育成
人権の尊重
多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
安全衛生管理
健康経営
社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制
コンプライアンス
リスクマネジメント
情報セキュリティ

CONTENTS

理念体系	02
目次・編集方針	03
トップメッセージ	04
会社概要	05
事業概況	06
価値創造プロセス	07
特集	08

環境

カーボンニュートラル実現にむけて	12
環境マネジメント	15
環境教育とコミュニケーション	16
地球温暖化対策の取り組みの成果	17
省資源／環境負荷物質管理の取り組み	19
環境データ	21

社会

品質	27
取引先との関係	29
人材育成	30
人権の尊重	31
多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進	32
安全衛生管理	34
健康経営	35
社会貢献活動	36

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制	40
コンプライアンス	41
リスクマネジメント	42
情報セキュリティ	43

編集方針

この報告書では、FCCグループが「企業理念」に基づき、世界中のお客様に喜ばれる製品・サービスを提供する企業として、環境・社会・経済に与える影響を考慮し、長期的な企業戦略の中で果たすべき、社会的責任と社会課題の解決のために行っているさまざまな取り組みをステークホルダーの皆様にお伝えし、当社グループの活動に対する理解を深めていただくことを目的に発行しています。

本報告は、2021年度のトピックの一部をまとめた内容となっております。今後も、ステークホルダーの皆様が当社への理解を深められるよう、更なる内容の充実に努めていきます。

本報告は、GRI(Global Reporting Initiative)サステナビリティ・レポート・スタンダード、環境省「環境報告ガイドライン」を参考にしています。

発行日

2022年12月

掲載対象期間

2021年度(2021年4月1日～2022年3月31日)

※一部情報には2022年4月以降のものも含まれています。

掲載対象範囲

株式会社エフ・シー・シーおよびグループ全体について報告

お問合せ

株式会社エフ・シー・シー 総務部

〒431-1394 静岡県浜松市北区細江町中川7000番地の36

TEL(053)523-2400(代) FAX(053)523-2405

CONTENTS

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて

環境マネジメント

環境教育とコミュニケーション

地球温暖化対策の取り組みの成果

省資源／環境負荷物質管理の取り組み

環境データ

社会

品質

取引先との関係

人材育成

人権の尊重

多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進

安全衛生管理

健康経営

社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制

コンプライアンス

リスクマネジメント

情報セキュリティ

メッセージ

Top
Message

企業理念の実践により、持続可能な社会の実現へ

私たちの企業理念には「独創的なアイデアと技術で」「社会へ貢献」の言葉があり、事業を通してこれらを実践していくことが、持続可能な社会とエフ・シー・シーの成長につながるものと考えています。中期経営計画においても、サステナビリティを経営の中枢に据え、「開発力・現場力強化」「デジタル進化」「新事業開発強化」の3つの事業方針を掲げて推進しています。

近年、脱炭素化への機運の高まりをはじめ、さまざまな社会課題に対応する動きが世界的に加速しています。当社においても、ESG（環境、社会、ガバナンス）における優先的に取り組むべき課題を特定するなど、これまで以上にサステナブルな経営の推進を図っています。当社がもつ保有技術（コア・コンピタンス）を生かし、モビリティ業界および新分野での価値創造を目指した活動を進めることで、カーボンニュートラルやSDGsの実現に取り組んでいます。

社会の情勢や時代の変革が大きく、先行きの不透明な時代だからこそ、当社は既存事業の競争力強化に加え、その技術価値を最大化して新しい価値を創造し続ける企業として、成長を続けてまいります。ステークホルダーの皆さまにおかれましては、今後も変わらぬ支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式会社エフ・シー・シー
代表取締役社長

齋藤 善敬

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて

環境マネジメント

環境教育とコミュニケーション

地球温暖化対策の取り組みの成果

省資源／環境負荷物質管理の取り組み

環境データ

社会

品質

取引先との関係

人材育成

人権の尊重

多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進

安全衛生管理

健康経営

社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制

コンプライアンス

リスクマネジメント

情報セキュリティ

会社概要

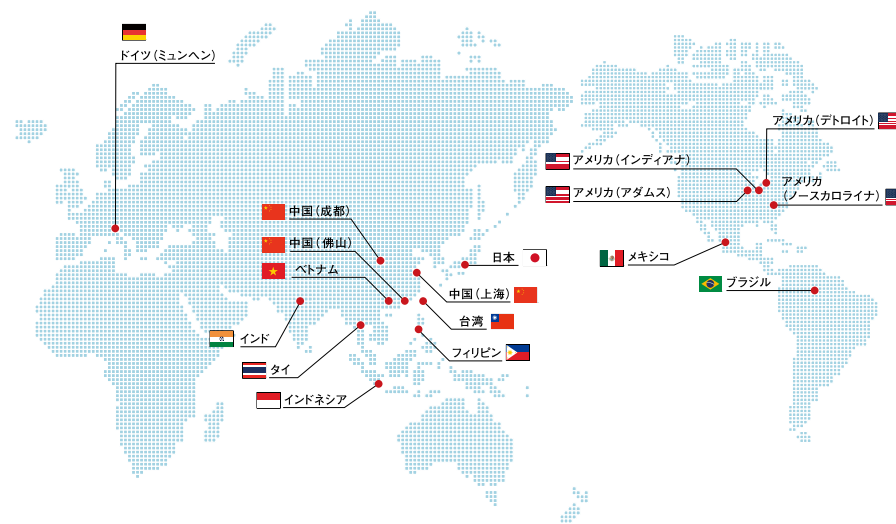
Company Profile



設立	1939年6月
代表者	代表取締役社長 齋藤 善敬
資本金	41億75百万円
従業員数	連結:8,053名 単独:1,113名 (2022年9月30日現在 正規従業員数)
本社所在地	〒431-1394 静岡県浜松市北区細江町中川 7000番地の36
国内拠点	本社 技術研究所、生産技術センター 浜北工場 渡ヶ島工場（静岡県浜松市） 浜北第二工場（静岡県磐田市） 鈴鹿工場（三重県鈴鹿市） 東京オフィス（埼玉県朝霞市） 大阪オフィス（大阪府池田市） 栃木オフィス（栃木県宇都宮市）
海外拠点	アメリカ:4拠点、メキシコ、ブラジル、 タイ:2拠点、インドネシア、ベトナム、 フィリピン、インド:7拠点、 中国:3拠点、台湾 ミュンヘンオフィス(ドイツ)
関係会社	株式会社九州エフ・シー・シー 天龍産業株式会社 株式会社フrint

沿革

1939年	不二ライト工業所創業
1943年	不二化学工業株式会社に社名変更
1948年	株式会社本田技術研究所（現、本田技研工業株式会社）と取引開始
1954年	鈴木自動車工業株式会社（現、スズキ株式会社）と取引開始
1956年	ヤマハ発動機株式会社と取引開始
1963年	三重県鈴鹿市に鈴鹿工場を新設 静岡県浜松市に研究所を新設
1984年	静岡県磐田市竜洋町（現、静岡県磐田市）に竜洋工場（現、浜北第二工場）を新設 ペーパーライニングの一貫生産を開始 商号を株式会社エフ・シー・シーに変更
1989年	静岡県引佐郡細江町（現、静岡県浜松市）に細江工場を新設 本社、技術研究所を移転
1991年	オートバイレース「ワールドグランプリ」に参戦
2000年	静岡県磐田市竜洋町（現、静岡県磐田市）に天竜工場を新設
2004年	東京証券取引所市場第一部上場
2013年	海外拠点数は世界10カ国14社22拠点に展開
2017年	静岡県浜松市に天竜工場を移転し、渡ヶ島工場に名称変更 株式会社フrint（現、連結子会社）の株式を100%取得
2018年	東北化工株式会社の全株式を譲渡 FIM世界耐久選手権ワールドチャンピオンを獲得
2020年	代表取締役社長に齋藤善敬が就任



理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

事業概況

Business
Overview

事業成長と社会課題解決への貢献を目指して

事業環境の急速な変化を踏まえ、既存事業の競争力強化に加えて、事業領域の拡大・新事業開発に注力しております。また、カーボンニュートラルをはじめとするサステナビリティへの取り組みを進め、電動化・脱炭素社会における持続的な企業価値の向上を図ってまいります。

電動化への取り組みの加速

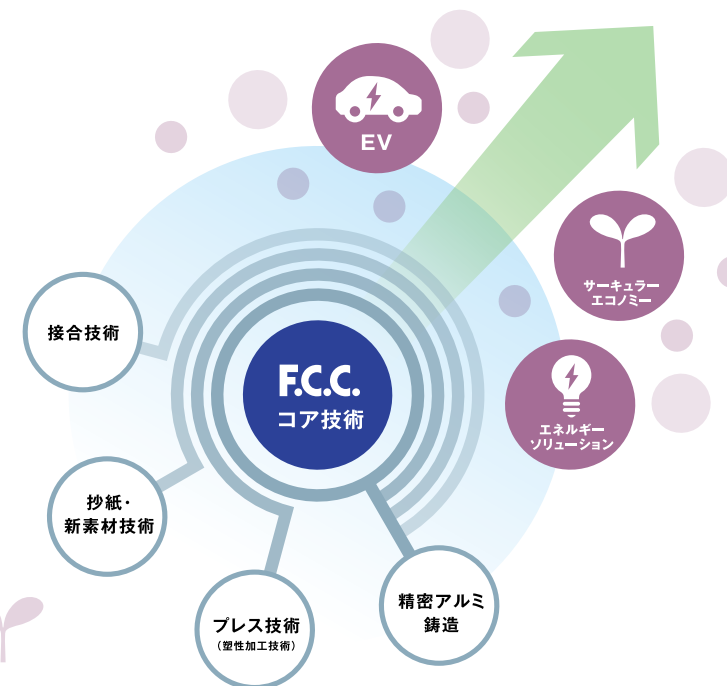
電気自動車 (EV) などに搭載されているモータの主要部品であるモータコアの製法・仕様における高付加価値化に取り組む一方で、小型EV (二輪・三輪) 向けパワーユニットの製品化開発を行っています。また当社コア技術を活用した電動化関連部品の早期製品化を目指してまいります。

- モータコア
- 小型EV向けパワーユニット
- 電動化関連部品

新事業開発・事業化の加速

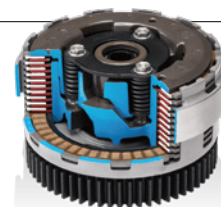
エネルギーソリューション/サーキュラーエコノミーをテーマにした化学技術開発を軸に、産学連携・共同開発などによる外部知見を取り込みながら技術課題の解決や早期事業化に向け取り組んでまいります。

- ろ過膜 (UF膜)
- 脱硝用触媒
- バイオエタノール発電SOFC
- 燃料電池
- ペーパーセラミックス
- シャトル電池



二輪用クラッチ

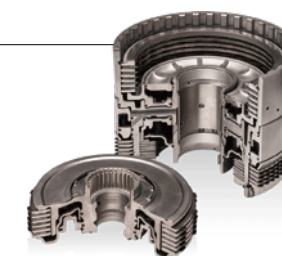
価値あるクラッチ競争力の進化と、小型モビリティ向け事業領域の拡大で事業の盤石化を進める



- ・ガソリン車市場での圧倒的シェアの維持・拡大・収益力の向上
- ・中国再編、ASEAN、インド市場の確実な捕捉、拡販、新興国市場の更なる開拓
- ・小型EVパワーユニットの事業化推進
- ・二輪EV・CASE対応向け事業領域の探索

四輪用クラッチ

クラッチ事業の収益力向上と、業容変革を見据えたEV・CASE対応向け製品・事業の仕込みを加速



- ・顧客、市場動向を踏まえ、生産変動への対応力を強化し、クラッチ事業の収益性向上
- ・モータコアSUBモジュール分野への参入による事業領域の拡大
- ・四輪EV・CASE対応向け事業領域の探索

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて
環境マネジメント
環境教育とコミュニケーション
地球温暖化対策の取り組みの成果
省資源/環境負荷物質管理の取り組み
環境データ

社会

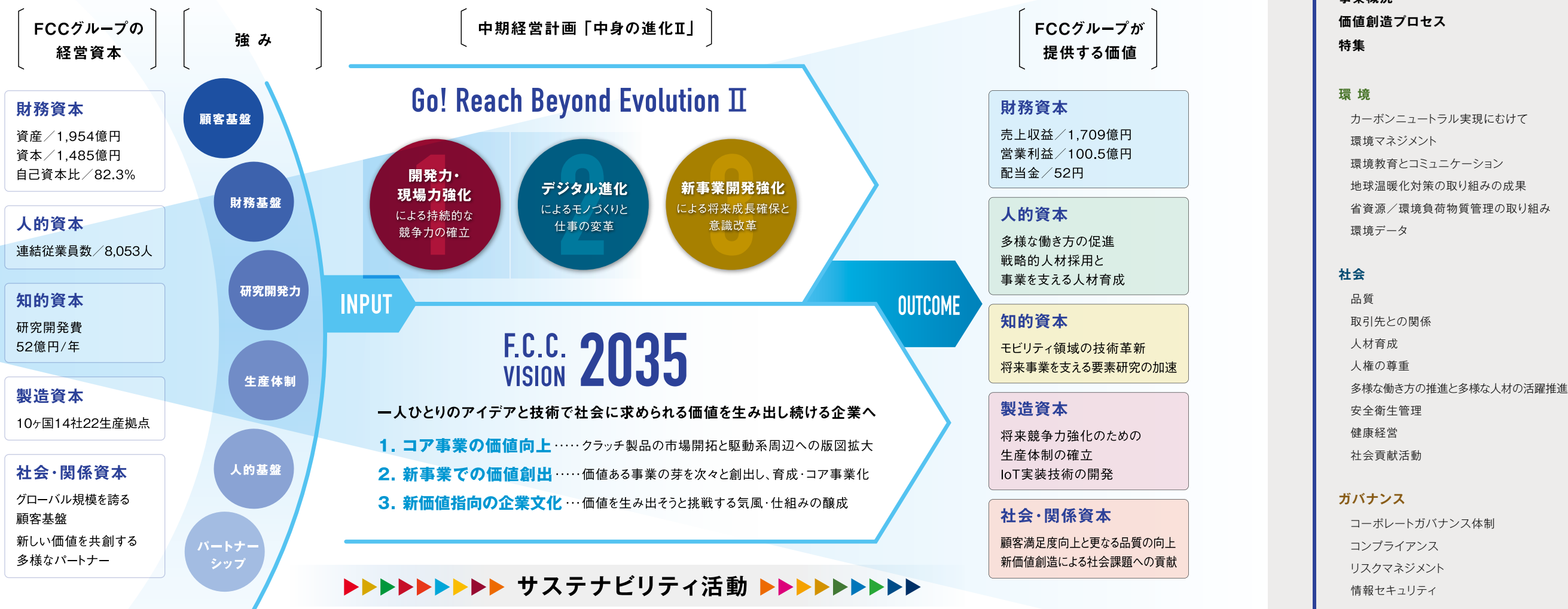
品質
取引先との関係
人材育成
人権の尊重
多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
安全衛生管理
健康経営
社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制
コンプライアンス
リスクマネジメント
情報セキュリティ

価値創造プロセス

中期経営計画では、「開発力・現場力強化」「デジタル進化」「新事業開発強化」の3つの事業方針を掲げ、CASE・MaaSやコロナ禍における事業環境の変化に対応しつつ、既存ビジネスにおける圧倒的な競争力を磨きながら、大変革の時代においても持続的な企業価値向上を図ってまいります。



- 理念体系
- 目次・編集方針
- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業概況
- 価値創造プロセス
- 特集

- 環境
 - カーボンニュートラル実現にむけて
 - 環境マネジメント
 - 環境教育とコミュニケーション
 - 地球温暖化対策の取り組みの成果
 - 省資源/環境負荷物質管理の取り組み
 - 環境データ
- 社会
 - 品質
 - 取引先との関係
 - 人材育成
 - 人権の尊重
 - 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
 - 安全衛生管理
 - 健康経営
 - 社会貢献活動
- ガバナンス
 - コーポレートガバナンス体制
 - コンプライアンス
 - リスクマネジメント
 - 情報セキュリティ



FCCの要素技術から 未来の社会課題解決へ

カーボンニュートラルの実現に求められる将来的な事業に向け、基礎研究を実施しています。産学連携で研究してきた成果と私たちの持つ強みを活かして、この要素技術をスピーディーに社会実装化し、社会課題の解決や未来ニーズの開拓につなげていくことを目指しています。

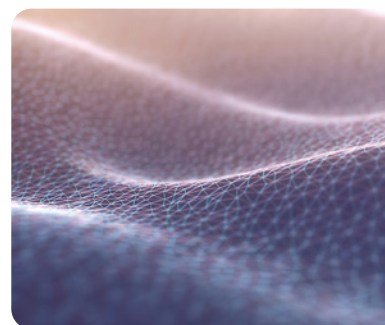
サーキュラー・エコノミーの実現に生かす FCCの要素技術〈ケミカル×メカトロニクス〉

FCCの研究開発は「社会的ニーズや将来の環境に対して、どのように固有の技術をつなげいくのか」というテーマで取り組んでいます。その重要なテーマの一つが触媒技術です。カーボンニュートラルの実現に求められる取り組みとして、クリーンエネルギー戦略が加速的に進められています。このクリーンエネルギーには、触媒の存在が必要不可欠であり、ここにクラッチ開発で培った世界トップレベルの〈ケミカル×メカトロニクス〉の技術を活かせることを確信しています。抄造したものを構造化し、加工して組み立ててユニット化し、さらに製品の評価まで一貫してできることが、長年培ってきた私たちの大きな強みです。電費向上や軽量化、熱マネジメント、CO₂削減などを追求したFCCの最先端技術で、カーボンニュートラルな社会の実現に貢献します。

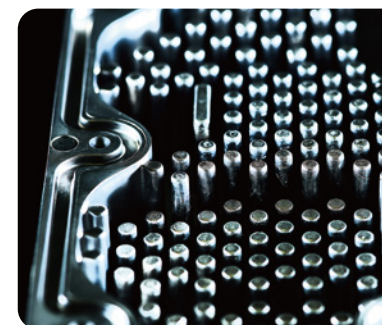
Chemical × Mechatronics

未来の社会と環境の礎を「創る」「整える」「つなぐ」

4つの主要技術



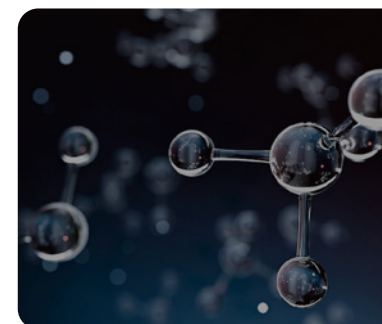
抄紙・新素材技術
紙からつくる高性能素材



精密アルミ鋳造
軽量・コンパクト・高精度 アルミダイカスト



プレス技術（塑性加工技術）
複雑で精密な形状を早く成形



接合技術
鉄とアルミなど、融点の違う異素材を接合する技術

理念体系
目次・編集方針
トップメッセージ
会社概要
事業概況
価値創造プロセス
特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて
環境マネジメント
環境教育とコミュニケーション
地球温暖化対策の取り組みの成果
省資源／環境負荷物質管理の取り組み
環境データ

社会

品質
取引先との関係
人材育成
人権の尊重
多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
安全衛生管理
健康経営
社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制
コンプライアンス
リスクマネジメント
情報セキュリティ



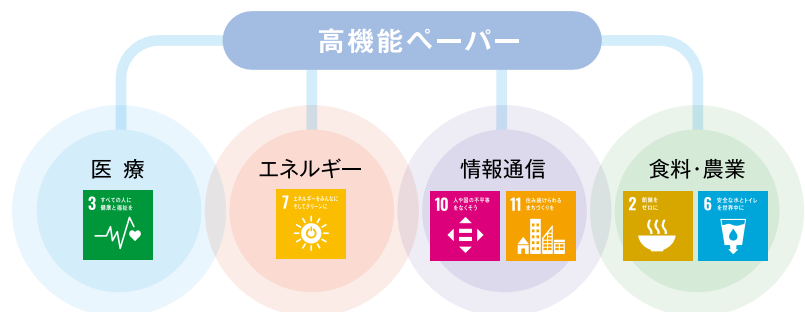
さまざまな分野に価値を創出する「紙」からつくる高機能素材

長年にわたり高耐久・高耐熱の摩擦材製造で培った「抄紙技術」はFCCの固有技術です。中でも特徴的なのが、用途やニーズに最適な原材料の配合設計を可能にし、さらに構造・形状のコントロールができる技術です。

ケミカル×メカトロニクスのFCCだからこそ、抄造工程に加え、折り曲げ、接着、溝加工などの工程にも対応し、自由な形状に加工することが可能です。さまざまな製品に活用できる高機能ペーパー素材を提供し、製品の高機能化・軽量化・コスト削減に貢献します。

抄紙・新素材技術の可能性

ペーパー特有の気孔構造により断熱・絶縁・電波吸収・ろ過・触媒などさまざまな用途に高いレベルで適用でき、熱マネジメントの観点においては、EVおよびその周辺機器の開発・製造にも貢献することができます。



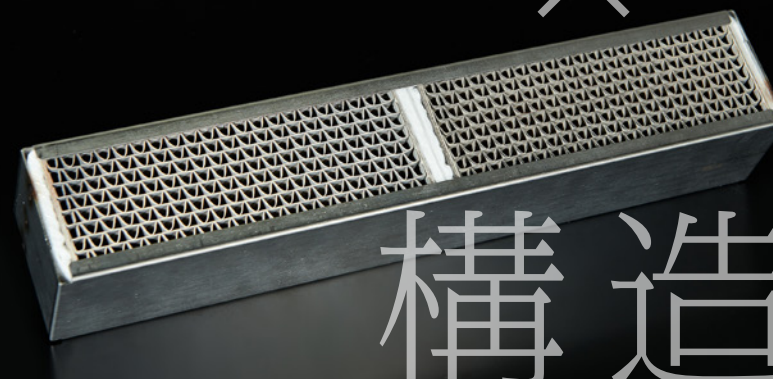
用途に応じた配合設計

原材料、抄造、コーティング条件のデータベースとノウハウの蓄積から、さまざまな用途に応じた配合設計を可能にします。

構造・形状をコントロール

気孔径、気孔率の異なる紙を製造するほか、排ガスを浄化するためのハニカム成型、電波吸収するためのピラミッド構造体など、形状を自在に調整できます。

材料



構造

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

- カーボンニュートラル実現に向けて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

特集



高機能素材を核としたコア技術で 未来社会の持続可能な成長を支えます

私たちにFCCには自動車メーカーの厳しいQCDの要求に応えるため、摩擦材の開発から組み立てまで一貫生産体制の中で磨き上げたコア技術があります。

「モノづくり」発想から社会課題解決の視点に立った「サービスづくり」へ。私たちの強みを活かし、次世代のモビリティ開発のみならず、持続可能な社会の実現に向けた技術開発を追求していきます。

モビリティ領域

モーター・PCU・変速機 etc...

「CASE」や「MaaS」に言い表される次世代モビリティ。私たちはこれまで同様、時代のニーズに柔軟に対応していきます。EV領域では、小型二輪コミューターの製品開発を推進中。モビリティの変容に合わせて、今後もチャレンジを続けます。



環境領域

排ガス浄化
カーボンニュートラル
水処理 etc...

2035

社会に求められる価値の創出

再エネ 省エネ領域

燃料電池、二次電池、
グリーンエネルギー etc...

生活領域

軟水器 etc...

C O N T E N T S

- 理念体系
- 目次・編集方針
- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業概況
- 価値創造プロセス
- 特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

環 境

Environment

カーボンニュートラル実現にむけて
 環境マネジメント
 環境教育とコミュニケーション
 地球温暖化対策の取り組みの成果
 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
 環境データ



- 理念体系
- 目次・編集方針
- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業概況
- 価値創造プロセス
- 特集

環 境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社 会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

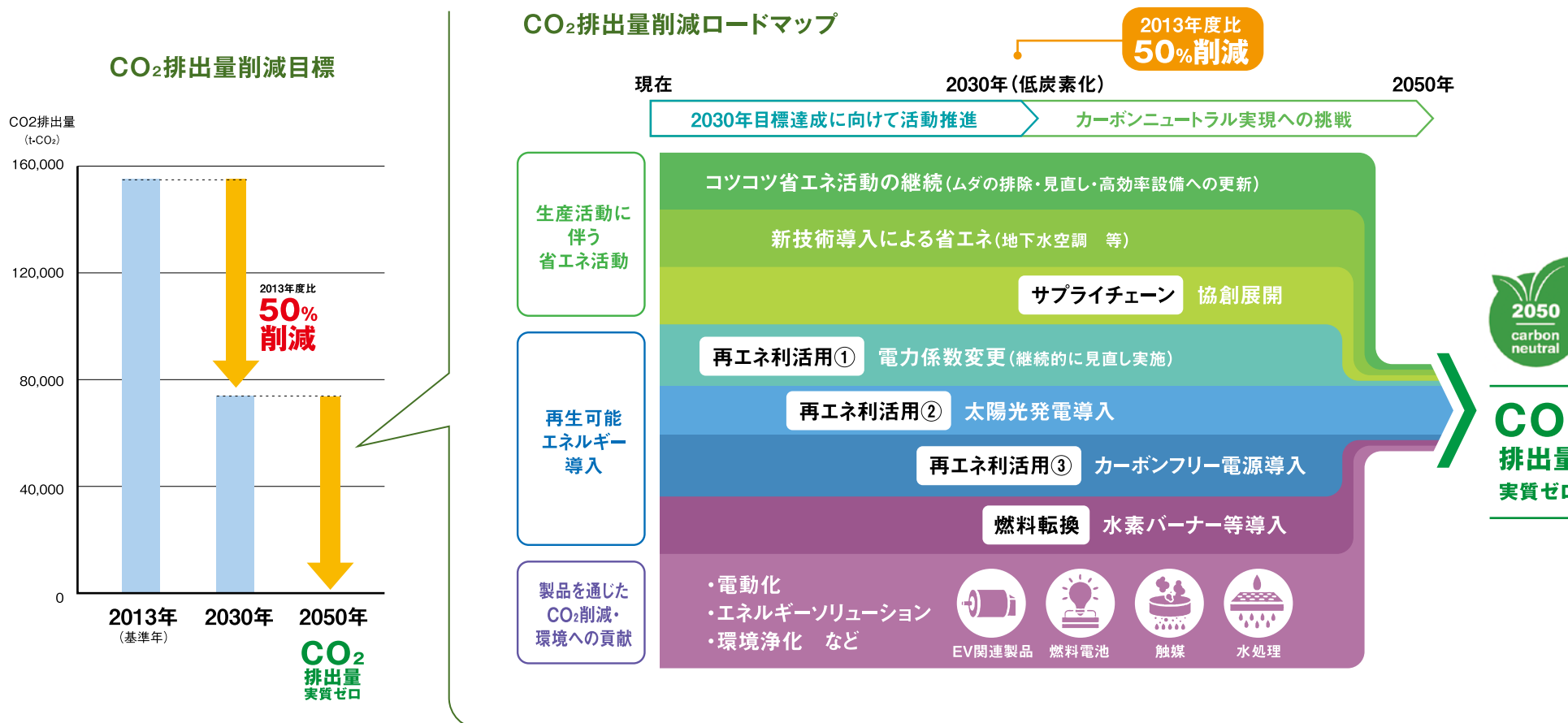
ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

環境 | カーボンニュートラル実現にむけて

カーボンニュートラル実現にむけて

2050年カーボンニュートラル実現へのマイルストーンとして、2030年に事業活動におけるCO₂排出総量50%削減を、グループ全体で目指します。達成に向け、生産活動や製品を通じたCO₂削減により環境課題解決を計画的に進めています。



- 理念体系
- 目次・編集方針
- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業概況
- 価値創造プロセス
- 特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源/環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

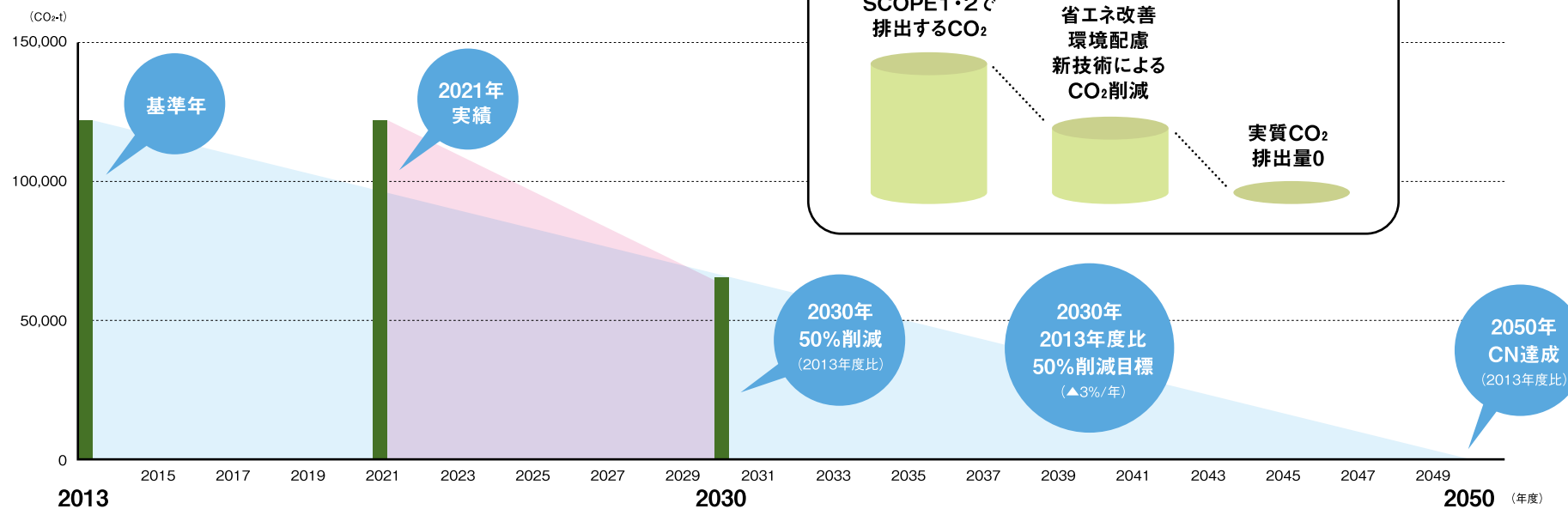
- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

環境 | カーボンニュートラル実現にむけて

F.C.C.事業活動によるCO₂排出量



2022年2月、当社グループの事業活動に伴うCO₂排出量の削減目標の見直しを行い、2030年度までに50%削減(2013年度比)、2050年度までに実質ゼロを目指すことといたしました。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症を始めとした生産変動の影響から復調の兆しが見え、2013年度のCO₂排出量に対して増加となっています。国内外の情勢変化だけでなく、CO₂削減においても厳しい状況下となっていますが、各拠点ごとに、CO₂削減計画の立案・管理を行いカーボンニュートラル達成に向けたPDCAを着実に推進していきます。

日本で培ってきた効率的な生産活動や省エネ取り組みを海外拠点にも展開し、CO₂削減を加速させ、2030年の中間目標達成に向けてALL FCCで積極的に取り組みます。

クリーンエネルギーへ転換

使用するエネルギーについては、再生可能エネルギー由来のクリーンエネルギーへの転換を進めています。2022年度から、一部導入を開始しました。



バイオエタノール混合燃料の導入

植物から生成するバイオエタノールは、CO₂排出量削減に効果があることから注目されています。FCCブラジルでは、社用車の燃料ガソリンのバイオエタノール転換を試験的に開始しました。



- 理念体系
- 目次・編集方針
- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業概況
- 価値創造プロセス
- 特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源/環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

環境 | カーボンニュートラル実現にむけて

環境方針に基づく取り組み

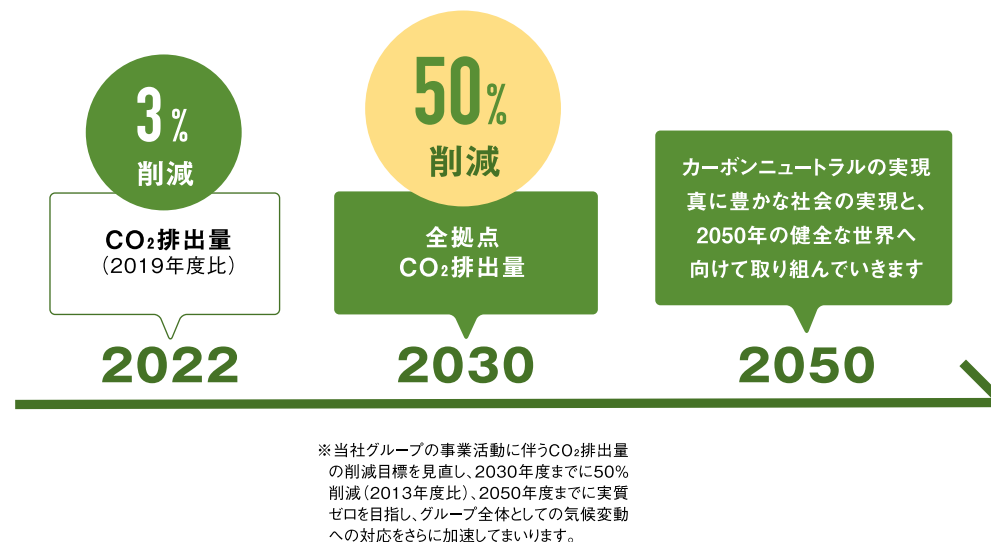
FCCグループでは中期事業計画(3年)ごとに環境目標を作成し、達成に向けて取り組んでいます。

考え方・方針

気候変動問題および自然保護・生物多様性の保全、循環型社会の形成を含む地球環境問題への取り組みは世界共通の課題であると認識し、事業活動を通して地球環境保護活動に取り組んでいきます。

>> 環境方針

エフ・シー・シーは、世界の人々に愛用されているクラッチ及びその他の自動車部品の製造に携わる地球市民の一員として、グローバルな視野に立ち、全員参加で生物多様性を含む地球環境の保全に配慮して行動し、真に豊かな社会の実現を目指します。



2021年度目標と実績

取り組み項目	管理項目	2021年度目標	2021年度実績	評価
1 CO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 排出量原単位 (国内拠点:CO ₂ ton/付加価値原単位)	全拠点: 2019年度より3%削減	国内拠点: 4.0%削減(達成度: 102%)	●
	CO ₂ 排出量原単位 (海外拠点:CO ₂ ton/付加価値原単位)		海外拠点: 5.4%増加(達成度: 目標未達成) ※受注変動に伴う固定エネルギー被りにより生産効率悪化	×
2 廃棄物排出量の削減	有償物量源単位 (ton/付加価値原単位)	国内拠点: 2019年度原単位同等以下	22%削減(達成度: 128%)	●
3 水資源使用量の削減	抄造生産数原単位 (m ³ /m)	抄造生産拠点: 2019年度より2%削減 鈴鹿工場: 抄造生産数原単位 (m ³ /m)	鈴鹿工場: 13%削減(達成度: 112%)	●
4 有害化学物質の管理	環境負荷物質低減	<ul style="list-style-type: none"> ■ 技術研究所: 含有品の低減代替技術の開発 ■ 国内工場: 工程中の法規制物質の低減 ■ 国内その他拠点: 新規購入品の成分評価 	技術研究所: 開発テーマでの評価実施 その他部門: 量産立ち上がり時確認、 新規購入品の成分評価実施	●

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源/環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

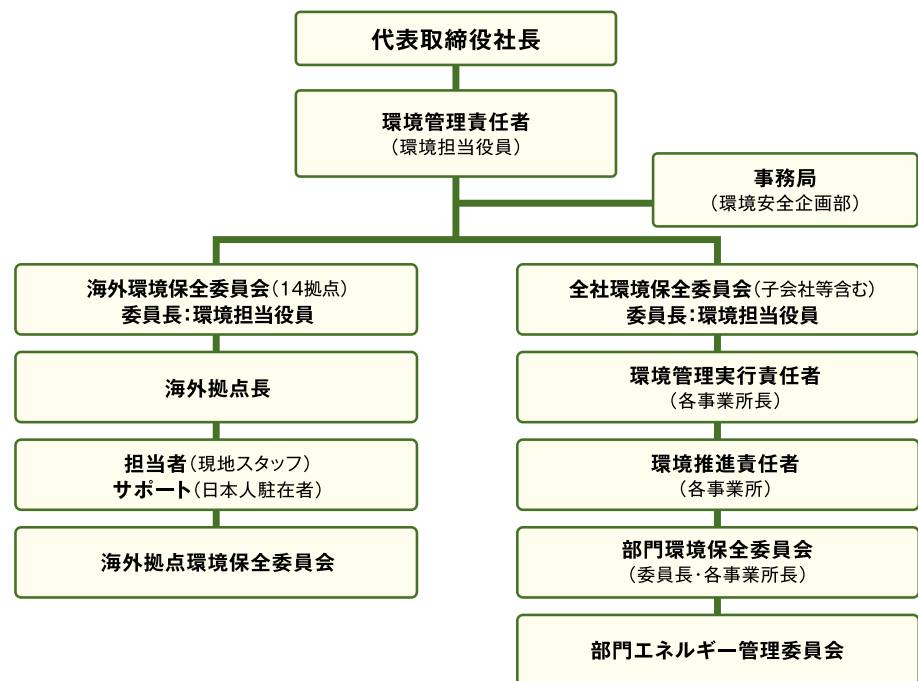
- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

環境 | 環境マネジメント

環境マネジメント

マネジメント体制

FCCは、環境管理責任者を委員長とし、国内拠点は全社環境保全委員会、海外拠点は海外環境保全委員会を中心とした体制を定め、拠点多いFCCならではの充実した情報、活動の水平展開を行い、効果的な環境保全活動に取り組んでいます。また、各拠点ごとに環境保全委員会を定期的に開催し、法規制順守などの確認や活動状況の管理を実施しています。



ISO14001 認証

FCCでは、継続的に環境パフォーマンスを向上していく基盤として、国際規格「ISO14001」の認証を取得しています。認証取得状況の詳細はWEBサイトで紹介しています。

国内 (子会社含む)	海外
全8拠点	13拠点

マネジメントレビュー

国際規格ISO14001に基づき、当社の環境マネジメントシステムが、適切、妥当かつ有効であることを確実にするため年1回、経営層による環境マネジメントレビューを実施しています。また、半期毎に活動実績確認会を実施し、社長と環境担当役員が国内各拠点に赴き、活動状況の現場確認を行っています。

環境監査と法令順守

FCCは、ISO14001に基づき、外部認証機関による審査及び、年1回の内部環境監査を実施しています。2021年度においても、法規制順守を含め対外的に重大な問題となる指摘はありませんでした。

環境リスクマネジメント

環境汚染を引き起こす恐れのある事故や緊急事態に対して、事業所ごとに想定した対応訓練を実施しています。処置手順を明確にして定期的に訓練を実施し、手順の習熟や改善を行っています。2021年度は、環境にかかわる重大な緊急事故の発生はありませんでした。



緊急事態訓練の様子 ドラム缶塞ぎ止め

- 理念体系
- 目次・編集方針
- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業概況
- 価値創造プロセス
- 特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源/環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

環境 | 環境教育とコミュニケーション

環境教育とコミュニケーション

環境教育の推進

社内デジタルサイネージ、イントラネットや社内報などを活用し、環境意識向上、行動活性化につながる活動を推進しています。社内デジタルサイネージでは、環境に関する基礎知識、最新の環境情報などを共有することで、従業員ひとりひとりに向けて意識醸成、啓発を行っています。また、社内報でも環境情報を紹介しています。従業員に加えて、家族の環境意識醸成、啓発にもつながるよう今後も継続していきます。

環境情報開示の強化

FCCでは、自らが取り組んでいる気候変動対策活動を適切に開示するため、2018年度から気候変動に関する企業評価の一つである国際 NPO 団体CDPによる「CDP気候変動」調査に参加し、CDPへの回答を行っています。CDP2021のスコアは、「B」となりました。FCCはこれからも自社の活動レベルを高めるとともに、積極的な情報開示を進めていきます。

環境データの第三者監査の実施

環境情報の透明性、信頼性への要求の高まりを踏まえ、FCCは、温室効果ガス(GHG: Greenhouse Gas)排出データについて、2018年より、SGSジャパン株式会社による第三者検証を受審し、ホームページにて開示しています。

環境改善提案

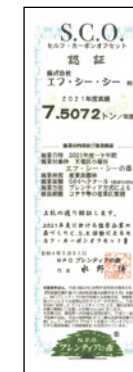
2015年度より、従来の改善提案制度の改善対象項目に「環境改善」を加え、従業員の積極的な環境保全の取り組みを促しています。日頃の生産活動の中で気づいた「環境改善提案」は、各拠点での取り組み施策として実施し、効果を出しています。また、従業員の意識向上につながっています。

日本で培った省エネ施策のノウハウを ALL FCC へ

FCCでは、これまで国内で培ってきた有効な省エネのノウハウをFCCグループと共有して一層のCO₂削減を目指します。海外のグループ会社の従業員たちが、手に取り活用してもらえるよう、冊子化しました。今後もCO₂削減のため、FCCグループ一丸となって情報を共有し、CO₂排出量削減に向けた取り組みを進めていきます。

環境関連の社会貢献活動について

浜松市天竜区の「エフ・シー・シーの森」において、植樹によるカーボン・オフセットの実施、森林生態系の回復を目的とした恒例の森の再生活動を行いました。昨年秋にどんぐりを拾い、従業員やその家族たちが里親として大切に育てた苗木を、「どんぐりの里親活動」の一環として今年もエフ・シー・シーの森に多数植樹しました。今後も継続して活動し、地域の生物多様性の保全に貢献していきます。



佐鳴湖地域協議会主催の「佐鳴湖ヨシ刈り」に今年度も参加しました。佐鳴湖湖岸に群生するヨシを刈り取ることで、枯れたヨシが水中や湖岸を汚すのを防いでいます。刈り取られたヨシは、お茶農家さんの手に渡り、茶畑の敷きわらとして活用されます。ヨシを刈り取ることにより景観が良くなるだけでなく、自分たちの環境活動が地域社会の生産活動、資源循環につながっています。



理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて
環境マネジメント
環境教育とコミュニケーション
地球温暖化対策の取り組みの成果
省資源/環境負荷物質管理の取り組み
環境データ

社会

品質
取引先との関係
人材育成
人権の尊重
多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
安全衛生管理
健康経営
社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制
コンプライアンス
リスクマネジメント
情報セキュリティ

環境 | 地球温暖化対策の取り組みの成果

地球温暖化対策の取り組みの成果

温室効果ガス排出量の低減

基本的な考え方

FCCグループでは気候変動への取り組みを最も重要な課題の一つと考え、「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃未満に抑える」というパリ協定の目標を尊重しています。目標達成に貢献するため、事業活動に伴うCO₂排出量削減を事業計画に盛り込み、脱炭素社会の実現を目指しています。パリ協定に基づく政府の長期戦略を受け、2022年2月、中期事業計画を見直し、カーボンニュートラルを目指したマイルストーンを作成しました。グループ全体で気候変動への対応を加速させていきます。

使用エネルギーを低減

事業活動全体で省エネ活動を継続して行っています。

工程の効率化、設備の運転・設定内容の見直し/適正化、エネルギー使用量の見える化など、様々な取り組みを推進し、有効施策はグループ全体で水平展開を行って、エネルギーの低減を図っています。

省エネ診断実績

FCCグループでは、かねてより、エネルギーの使用改善を進めてきました。長年の活動経験から知識を重ねた従業員を中心としたチームを編成し、国内事業所は元より、関係会社工場や海外拠点工場を対象に、「省エネ診断」を実施し、積極的な省エネ活動を推進しています。新型コロナウイルス感染症の影響下でも、Web会議を取り入れながら実施いたしました。

〈省エネ診断事例 鈴鹿工場〉溶解炉断熱

溶解炉の断熱や、設備タイマーの設定見直しにより、従来比約14%ガス使用量削減につながりました。



2021年度結果(2019年度比)

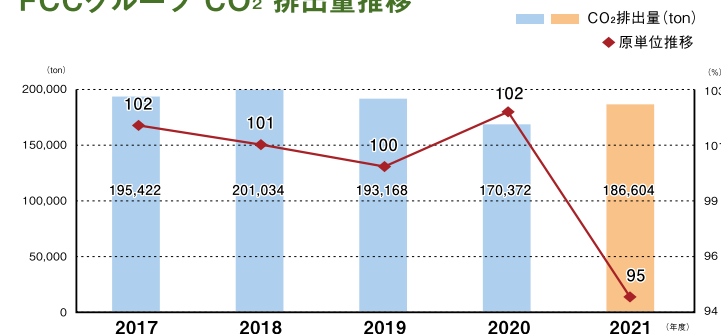
CO₂排出量

3.4% 削減

CO₂排出原単位

5.4% 削減

FCCグループ CO₂ 排出量推移



2021年度省エネ診断実績

CO₂削減提案量

496 t-CO₂

CO₂削減比

3.1%
(2019年度比)

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて

環境マネジメント

環境教育とコミュニケーション

地球温暖化対策の取り組みの成果

省資源/環境負荷物質管理の取り組み

環境データ

社会

品質

取引先との関係

人材育成

人権の尊重

多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進

安全衛生管理

健康経営

社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制

コンプライアンス

リスクマネジメント

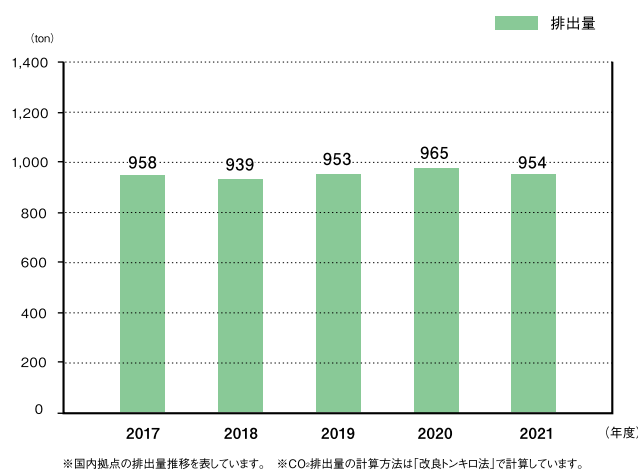
情報セキュリティ

環境 | 地球温暖化対策の取り組みの成果

製品輸送におけるCO₂排出量

2006年省エネルギー法が改正され、輸送分野においても省エネ取り組みが求められるようになりました。FCCではお取引先のご協力のもと、輸送におけるCO₂排出量の把握、削減に取り組んでいます。

製品輸送におけるCO₂排出量推移



(TOPICS)

物流におけるCO₂排出削減

生産拠点変更を含めた物流におけるCO₂排出量削減に取り組んでいます。社内の物流動線の見直しとお客様に近い拠点から出荷することで、輸送距離が短縮され、物流におけるCO₂排出量を大幅に削減することが出来ました。今後も当たり前を当たり前と思わず、物流の効率化に向けた取り組みを進めてまいります。



グリーン購入・調達

FCCでは、お取引先に「FCCグリーン調達適合宣言書」をご提出いただいております。GADSLリストに基づく環境負荷物質リストや、FCCの環境方針/基準等を共有し、環境改善活動にともに取り組んでいます。

お取引先環境視察

サプライチェーン全体での環境管理推進を目的に、環境管理システムの公的認証、自己宣言を行っていないお取引先を対象としたお取引先訪問を実施し、環境情報の共有に取り組んでいます。

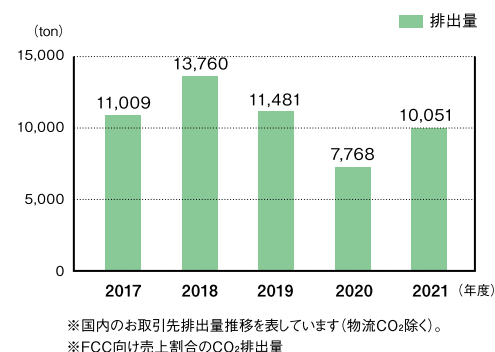


お取引先立ち合いのもと最終排水溝確認の様子

お取引先環境データ

すべての企業活動と商品の使用に伴う環境負荷低減への責務として、製品の一生にわたる環境負荷を評価するライフサイクルアセスメント(LCA)の考え方に基づき、お取引先のCO₂排出量調査を2008年度より実施しています。最終的には企業活動の全領域(生産・購買・販売・オフィス・物流など)におけるCO₂排出総量を定量的に把握し、削減につなげることを目的としています。

お取引先CO₂排出量推移



お取引先その他データ把握

項目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
廃棄物排出量	5,736ton	2,698ton	2,480ton	2,142ton	2,633ton
水資源使用量	64,397m ³	49,018m ³	47,103m ³	24,771m ³	59,390m ³

※FCC向け売上割合の廃棄物排出量、水資源使用量

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

環境 | 省資源／環境負荷物質管理の取り組み

省資源／環境負荷物質管理の取り組み

廃棄物の低減

基本的な考え方

当社は、2004年に埋め立て産業廃棄物をなくす“ゼロエミッション”（総排出量当たりの最終処分における埋め立て廃棄物1.0%以下）を達成し、以降、ゼロエミッションを維持するとともに、リサイクルの分別排出のレベル向上や源流対策による発生量の削減を推進してきました。有価物（紙類・廃プラ類）に関しても「使用資源の削減」の観点から、排出抑制に取り組んでいます。また、製品開発の段階から金属材料の省資源化に取り組んでおり、限りある資源の有効活用に取り組んでいます。

〈TOPICS〉

梱包資材の低減

環境試験機（恒温恒湿器）を用いて、輸送過程の温度や湿度の再現などを行い、輸送環境や製品の特性に合った梱包を行うことで、製品の品質を確保しながら資材の有効活用及び廃棄物削減につながりました。

防錆資材の使用量見直し

梱包容器の形状を見直すことで、防錆効果を高めることができ、防錆剤使用量や廃棄物排出量削減につながりました。

2021年度結果（2019年度比）

廃棄物排出量

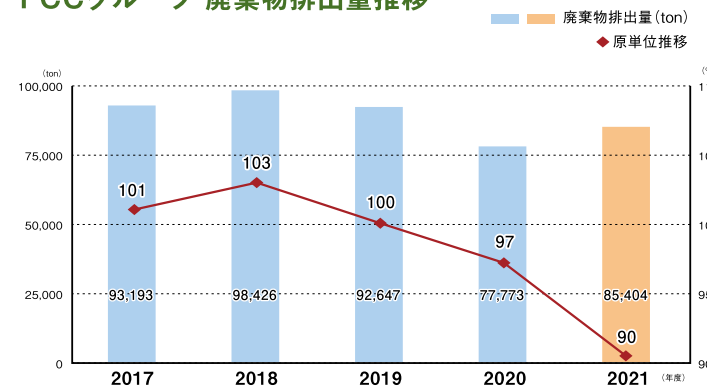
7.8 % 削減
(2019年度比)

リサイクル率

99.2%

※ゼロエミッション達成
当社では廃棄物最終処分量（埋立を行わない、「リサイクル率99%以上」をゼロエミッションの定義としています。

FCCグループ 廃棄物排出量推移



- 理念体系
- 目次・編集方針
- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業概況
- 価値創造プロセス
- 特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

環境 | 省資源／環境負荷物質管理の取り組み

水資源の有効活用

基本的な考え方

当社は、水資源を多量に使用する抄造工程を持つ会社として、2010年から本格的に水の節約に努めるとともに、グループ全体で水の取水別取水量を把握しています。

水は、世界中の人のくらしや社会、そして当社の事業にも欠かせない資源です。FCCグループとして、今後も水使用量の削減を計画的に推進していきます。

雨水タンク活用による受水量削減の取り組み
[台湾富士离合器股份有限公司]

工場に設置したタンクに雨水を貯水し、トイレや床の清掃に使用しています。



【関連するSDGs】



中間排水処理施設設置 [浜北工場]

生産工程で多量に発生する廃液を自社処理する事により、廃棄物削減を実現しました。

処理水は、浜松市下水排除基準を満たす「安全な水」にして下水道に放流しています。



【関連するSDGs】



2021年度結果(2019年度比)

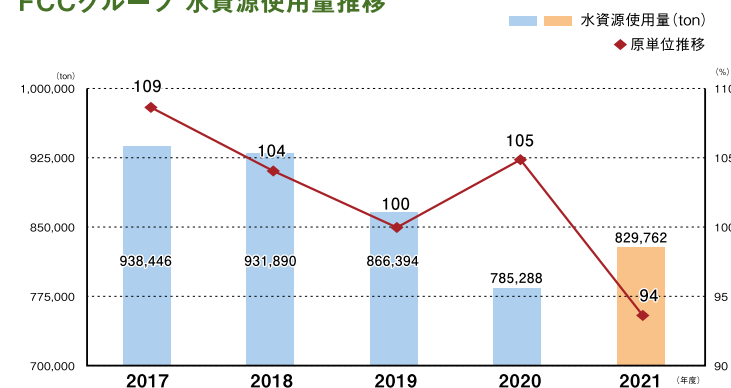
水資源使用量

36,632 m³ 削減

水資源使用量原単位

6.0% 削減

FCCグループ 水資源使用量推移



- 理念体系
- 目次・編集方針
- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業概況
- 価値創造プロセス
- 特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

環境データ

Environmental Data



- 理念体系
- 目次・編集方針
- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業概況
- 価値創造プロセス
- 特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

環境データ | マテリアルフロー

INPUT

グリーン購入の取り組み

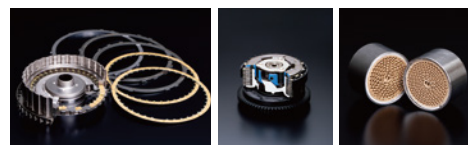
■ 原材料		■ 水資源	
鋼材	9,072 ton	上水	17,605m ³
鋳鉄	0 ton	工業用水	14,134m ³
アルミ材	1,540 ton	地下水	238,872m ³
非鉄金属	1.4 ton		
その他素材	2,253 ton		

■ 副資材	
油脂	2,243 ton
PRTR法対象物質取扱量	41 ton

■ エネルギー	
電力	31,216 kWh
LPG	1,091 ton
灯油	0.1 kl
ガソリン	18 kl
軽油	1.4 kl
重油	0 kl
都市ガス	147 km ³
エネルギー投入量	364,299 GJ

技術研究開発活動

環境負荷の少ない製品開発・設計／
仕様検討による源流改善



調達

生産活動

環境影響のMIN化を図る

製品

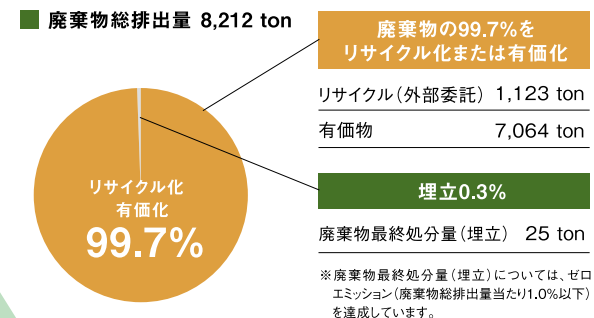
製品輸送

製品

お客さま(自動車メーカー)を通じて、
世界市場へ

OUTPUT

廃棄物再利用の取り組み



排出物把握・削減 監視の取り組み

■ 大気		■ PRTR法対象物質排出量	
CO ₂ 排出量	15,455 ton	大気への排出量	0.12 ton
NOx排出量	0 ton	水域への排出量	0 ton
SOx排出量	0 ton	社外への移動量	4.24 ton

■ 水質	
BOD	0.00 ton
COD	1.12 ton

■ お取引先CO ₂ 排出量	10,051 ton
■ 製品輸送におけるCO ₂ 排出量	954 ton

- 理念体系
- 目次・編集方針
- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業概況
- 価値創造プロセス
- 特集

環境

カーボンニュートラル実現に向けて
環境マネジメント
環境教育とコミュニケーション
地球温暖化対策の取り組みの成果
省資源／環境負荷物質管理の取り組み
環境データ

社会

品質
取引先との関係
人材育成
人権の尊重
多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
安全衛生管理
健康経営
社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制
コンプライアンス
リスクマネジメント
情報セキュリティ

環境データ | 環境会計

環境保全の活動を効果的・効率的に推進するため、環境負荷や環境保全の費用を把握しています。

(百万円)

分類	主な取り組み内容	2020年度		2021年度	
		投資額	経費額	投資額	経費額
事業エリア	公害防止コスト	3	38	27	39
	地球環境保全コスト	82	49	31	57
	資源循環コスト	0	40	9	47
上下流コスト	生産・販売した製品等のリサイクル・回収・再商品化・適正処理等	0	0	0	0
管理活動コスト	緑地管理、内部環境監査員養成、ISO定期審査、環境測定・検査、環境教育、環境労務等	4	87	0	77
研究開発コスト	製品等の研究・開発(燃費向上(軽量化)、環境負荷物質削減、有機溶剤削減、歩留まり向上)等	0	1,045	0	461
社会活動コスト	地域清掃活動、緑化、植樹活動等	0	2	0	2
環境損傷対応コスト	—	0	0	0	0
合 計		88	1,262	67	682

※端数処理のため、合計値は必ずしも一致しません。

- 理念体系
- 目次・編集方針
- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業概況
- 価値創造プロセス
- 特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

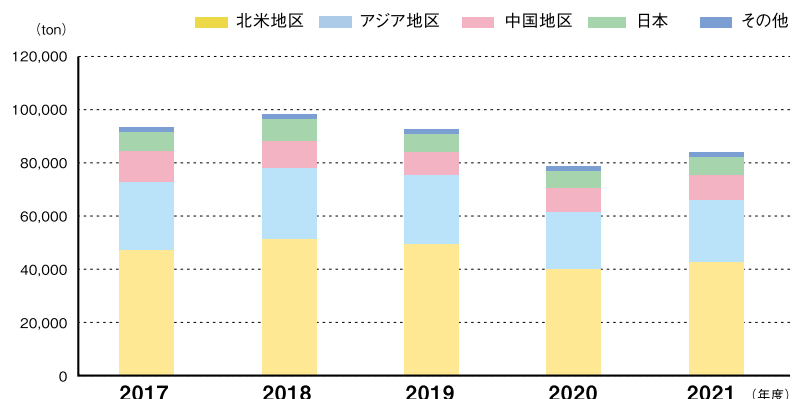
- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

環境データ | 環境関連データ

FCCグループでは、企業活動の全ての環境負荷を低減するため、各事業所でCO₂や廃棄物排出量および水の使用量低減などの取り組みを積極的に推進しています。

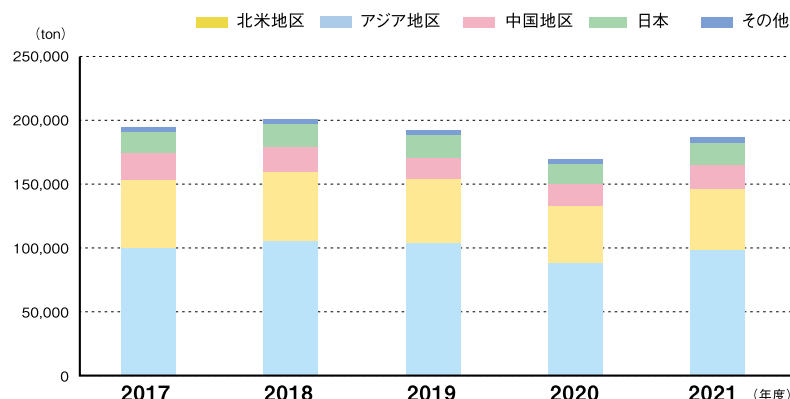
※2021年度の各詳細数値は当社ホームページにて公開しています。

FCCグループ CO₂ 排出量推移

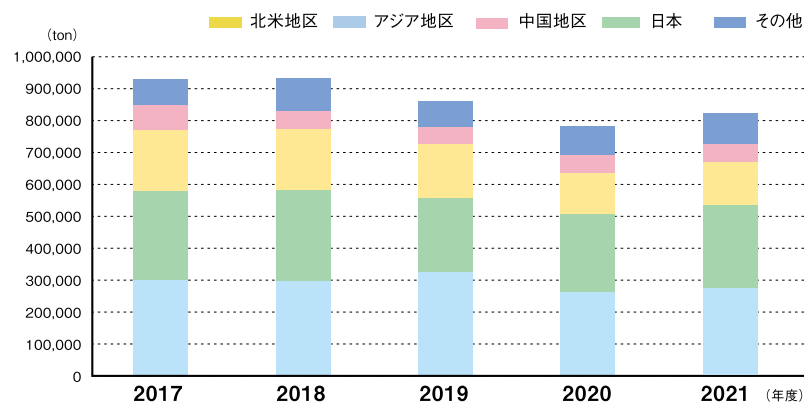


※上記CO₂排出量は固定係数を使用しています。

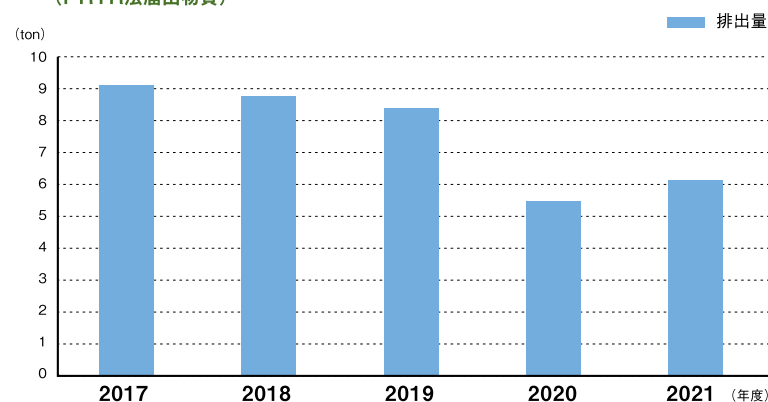
FCCグループ 廃棄物排出量推移



FCCグループ 水資源使用量推移



FCCグループ 環境負荷物質排出量推移
(PRTR法届出物質)



- 理念体系
- 目次・編集方針
- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業概況
- 価値創造プロセス
- 特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

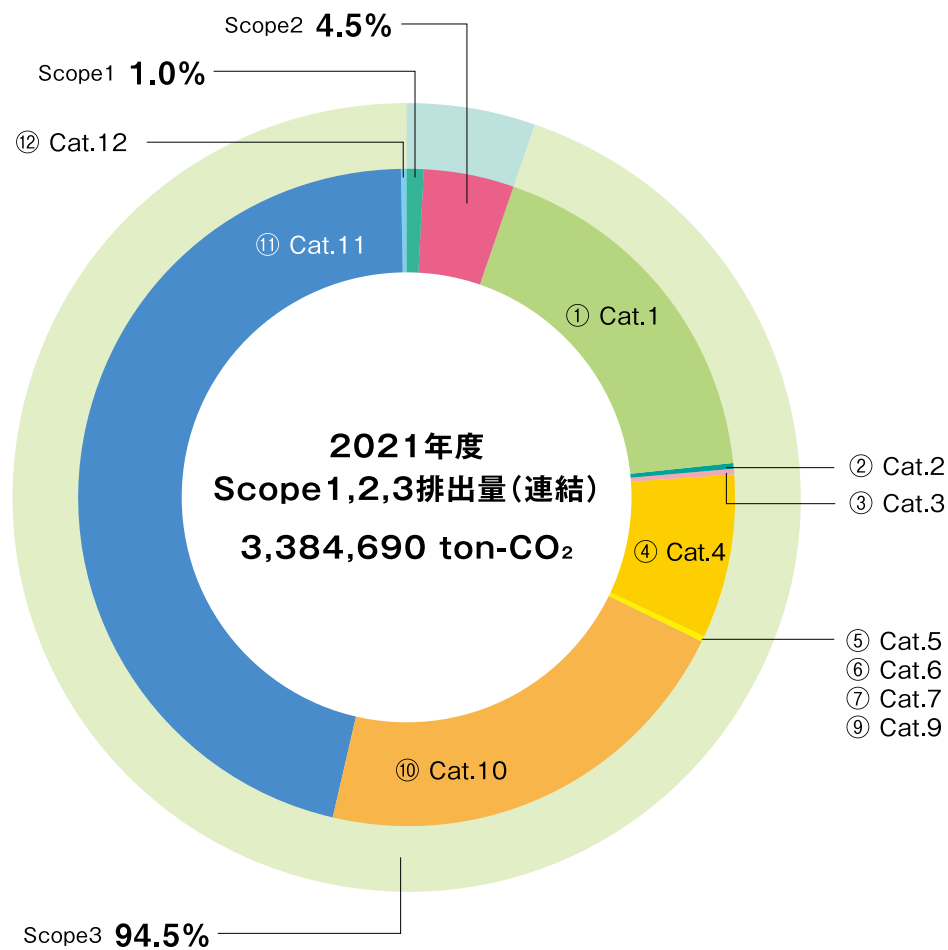
社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

環境データ | SCOPE1・2・3 排出量グラフ



SCOPE1・2・3排出量データ

Scope	カテゴリー	割合【%】
Scope 1	ガスやガソリンなどの直接排出	1.0%
Scope 2	電気などの間接排出	4.5%
Scope 3	① Cat.1 購入した製品、サービス	17.8%
	② Cat.2 資本財	0.5%
	③ Cat.3 Scope 1,2に含まれないエネルギー関連活動	0.2%
	④ Cat.4 輸送・配送(上流)	7.9%
	⑤ Cat.5 事業から出る廃棄物	0.3%
	⑥ Cat.6 出張	0.03%
	⑦ Cat.7 雇用者の通勤	0.1%
	⑧ Cat.8 リース資産(上流)	0%
	⑨ Cat.9 輸送・配送(下流)	0.1%
	⑩ Cat.10 販売製品の加工	21.3%
	⑪ Cat.11 製品の使用	46.0%
	⑫ Cat.12 製品の廃棄	0.1%
	⑬ Cat.13 リース資産(下流)	0%
	⑭ Cat.14 フランチャイズ	0%
	⑮ Cat.15 投資	0%
	⑯ Cat.16 その他	0%

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて
環境マネジメント
環境教育とコミュニケーション
地球温暖化対策の取り組みの成果
省資源／環境負荷物質管理の取り組み
環境データ

社会

品質
取引先との関係
人材育成
人権の尊重
多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
安全衛生管理
健康経営
社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制
コンプライアンス
リスクマネジメント
情報セキュリティ

社会

Social

品質

取引先との関係

人材育成

人権の尊重

多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進

安全衛生管理

健康経営

社会貢献活動



理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて

環境マネジメント

環境教育とコミュニケーション

地球温暖化対策の取り組みの成果

省資源／環境負荷物質管理の取り組み

環境データ

社会

品質

取引先との関係

人材育成

人権の尊重

多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進

安全衛生管理

健康経営

社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制

コンプライアンス

リスクマネジメント

情報セキュリティ

社会 | 品質

品質

考え方・方針

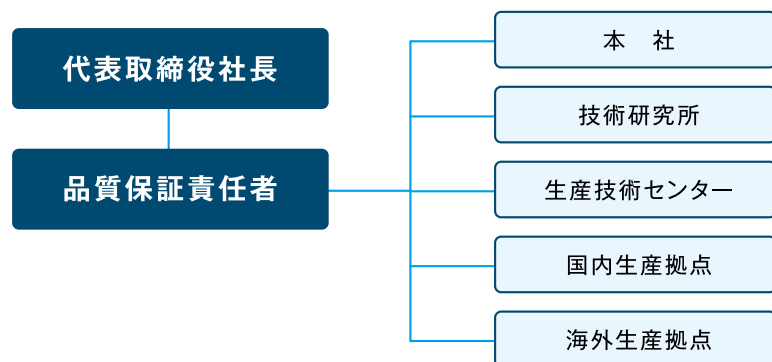
人命を預かる自動車部品メーカーの一員として、従業員一人ひとりが品質の重要性を理解し、品質に対して真摯に取り組むことで、お客様に信頼していただける品質づくりに努めています。

》 品質方針

エフ・シー・シーは、自動車・オートバイ・汎用機の重要機能部品の製造者として、顧客に信頼される品質マネジメントシステムと技術により、顧客の満足する製品の機能と性能を継続的に保証します。

品質保証体制

FCCは、ものづくりのすべての基本理念となる「品質方針」のもと、グローバルでの製品品質の維持・向上に努め、お客様に満足いただける品質保証体制を構築しています。



品質保証活動（FQS）

品質方針に基づき、FCCグループ全体の統一した品質保証ガイドラインFQS(F.C.C. Quality Standard)を制定・運用することで、世界中のお客様の満足する製品の機能・性能を継続的に保証しています。この規定をグループ全体へ反映させることで、作業の方々が分かりやすく守りやすい作業の標準化とその作業を阻害する「変化点」や「異常処置」に対する改善活動を海外拠点へも展開し、ものづくり品質の向上に取り組んでいます。

品質マネジメントシステム

日本国内にて、1996年に外部認証による品質マネジメントシステム取得を皮切りに、海外拠点を含めISO9001・IATF16949の認証を取得しています。FCCは国際規格に準拠した品質マネジメントシステムを確立し、常に継続的改善を意識することにより、業界トップレベルの品質体質を目指しています。



品質教育・啓発活動

製品の価値を高め、お客様の期待に応えるために、「FQS品質教育・訓練程度」を整備しています。各部門の役割や立場において必要な品質マネジメントへの意識向上や、技術・品質管理手法などのスキル向上をめざし、社内資格や業務内容に応じて階層別に教育プログラムを企画・推進しています。また、品質不正については、他社で起きた事例をもとに、その原因や具体的行為を共有し、自社での品質不正防止に向けた対策を検討・発信しています。

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて

環境マネジメント

環境教育とコミュニケーション

地球温暖化対策の取り組みの成果

省資源／環境負荷物質管理の取り組み

環境データ

社会

品質

取引先との関係

人材育成

人権の尊重

多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進

安全衛生管理

健康経営

社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制

コンプライアンス

リスクマネジメント

情報セキュリティ

社会 | 品質

主な品質表彰

FCCの技術力やものづくり品質が高く評価され、世界中の様々なお客さまより幅広い分野で表彰をいただきました。

Honda Motorcycle and Scooter India 様より

Performance and Extra Ordinary Support 2021-22 を受賞

品質、納品、開発、コスト面において総合的に高い評価をいただき、取引先178社のうち1位に選出され受賞いたしました。



General Motors Company 様より

GM Supplier Quality Excellence Award 2021 を受賞

取引先5,000社のうち、評価指標となる8つの項目をすべてクリアし、最高レベルの品質 (BIQS Level 5) を12ヶ月連続で達成したことにより受賞いたしました。



PT Suzuki Indomobil Motor 様より

Best Partner Supplier Part 2W&4W Award 2021 を受賞

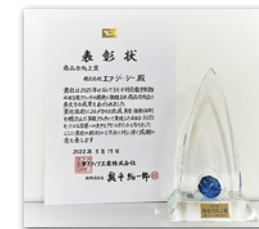
品質、コストダウンの分野で高い評価をいただき、取引先100社のうち上位3社に選出され受賞いたしました。



ダイハツ工業株式会社 様より

商品力向上賞 を受賞

当社技術のメカロス低減/異音・振動抑制を織り込んだ4WD用クラッチアッセンブリーが高く評価され受賞いたしました。



その他の受賞歴

American Honda Motor : 品質/搬入賞

東風本田発動機 : 品質表彰

Honda Philippines Inc. : 品質/搬入/環境賞

Thai Honda Manufacturing : 搬入表彰

Toyota Motor North America : 品質表彰

ヤマハ発動機 : グローバル原価革新賞

Kawasaki Motors Thailand : 品質/コスト/搬入賞

品質/コスト/搬入賞

TVS Motor : 品質/コスト/搬入賞

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現に向けて

環境マネジメント

環境教育とコミュニケーション

地球温暖化対策の取り組みの成果

省資源/環境負荷物質管理の取り組み

環境データ

社会

品質

取引先との関係

人材育成

人権の尊重

多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進

安全衛生管理

健康経営

社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制

コンプライアンス

リスクマネジメント

情報セキュリティ

社会 | 取引先との関係

取引先との関係

考え方・方針

持続可能な社会の発展において、市場経済社会の健全な発展の基本である「校正かつ透明性のある取引」の重要性を理解し、法令遵守のみならず、人権・労働・環境・腐敗防止などに配慮した事業活動をサプライチェーン全体で行うことを目指しています。

》 腐敗防止方針

エフ・シー・シーは、腐敗取引が持続可能な社会の発展及び法の支配を阻害するものであることを理解し、国際的な枠組みに従い、あらゆるステークホルダーと透明性のある関係を保ち、健全な企業活動を行います。

》 調達方針

エフ・シー・シーは、グローバルな生産体制をもつ企業として、持続可能な調達のために、取引先との信頼関係を大切にするとともに、公平・公正・公明な調達活動を行います。

社内教育と注意喚起

顧客や取引先、ビジネスパートナーに対して、不当な利益や優遇処置の取得を目的とする社会通念を越えた接待・贈答・金銭などの授受・供与が行わないう社内教育を実施し周知徹底を図っています。

サプライチェーンにおけるサステナビリティ推進

原材料や部品を調達するにあたっては、「調達方針」に基づいた取引基準に沿って調達先を選定するとともに、人権や労働、コンプライアンスなどサステナビリティに関する要請事項を定めた「サプライヤーサステナビリティガイドライン」を製造メーカーの全取引先へ伝達しています。

サプライヤーへのサステナビリティに関する要請事項

項目	要請事項
安全・品質	1) 消費者・顧客ニーズに応える製品・サービスの提供 2) 製品・サービスの安全・品質ガバナンスの徹底 3) 製品・サービスの安全・品質確保
人権・労働	1) 差別撤廃 2) 人権尊重 3) 児童労働の禁止 4) 強制労働の禁止 5) 賃金 6) 労働時間 7) 従業員との対話・協議 8) 安全・健康な労働環境 9) 紛争鉱物への対応
環境	1) 環境マネジメント 2) 温室効果ガスの排出削減 3) 大気・水・土壌等の環境保全 4) 省資源・廃棄物削減 5) 化学物質管理
コンプライアンス	1) 法令の遵守 2) 競争法の遵守 3) 腐敗防止 4) 利益相反の禁止 5) 機密情報の管理・保護 6) 通告者保護 7) 輸出取引管理 8) 知的財産の保護
情報開示	1) ステークホルダーへの情報の開示

取引先との連携強化

FCCを取り巻く環境と目指すべき方針を提示し、その上で年度の調達方針を理解していただくために、毎年3月に「取引先懇親会・懇談会」を行っています。

取引先懇親会・懇談会では、製造メーカーの取引先にご参加いただき、安全・品質・コスト・技術・グローバル展開、各種活動への協力についての説明、優秀な成績を収めた取引先への表彰授与などを通して、取引先との連携を密にしています。

調達スキルの向上

購買担当者または全拠点を対象とした専門教育を実施し、調達・購買スキルの向上を目指しています。

下請法教育

全拠点を対象に下請法の基礎講習会を実施しています。講習では、下請法の基礎教育に加え、取引適正化重点5項目(金型保管料支払、価格決定の適正化、知的財産の保護等)等の近年の動向変化にも対応した教育活動を実施しています。

調達プロフェッショナル認定取得

調達業務において、原材料や部品の調達を目的にさまざまな取引先との交渉にあたり、公正公平で透明な取引を通して継続的な安定調達を実現することが求められます。購買担当者には外部資格である調達プロフェッショナル認定者(CPP)の取得を推進し、専門スキル向上に努めています。

紛争鉱物への対応

コンゴ民主共和国などの紛争の存在する地域で産出される鉱物の一部は、非人道的行為を行う武装勢力の資金源となって紛争を助長する、あるいは人権侵害を引き起こす可能性があると言われてしています。FCCグループは、調達活動における社会的責任を果たすため、取引先の皆さまと連携し、サプライチェーンの透明性を確保するとともに、武装勢力の資金源となる「紛争鉱物」の不使用に向けた取り組みを推進しています。

*紛争鉱物:「スズ(Tin)」、「タンタル(Tantalum)」、「タングステン(Tungsten)」、「金(Gold)」

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて

環境マネジメント

環境教育とコミュニケーション

地球温暖化対策の取り組みの成果

省資源/環境負荷物質管理の取り組み

環境データ

社会

品質

取引先との関係

人材育成

人権の尊重

多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進

安全衛生管理

健康経営

社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制

コンプライアンス

リスクマネジメント

情報セキュリティ

社会 | 人材育成

人材育成

考え方・方針

共に働く仲間の個性や価値観、能力を認め合い、刺激し合うことが企業と人材の成長の源泉と考え、多様な人材の就労、活躍を可能とする人事・処遇制度を構築し、明るく・楽しく・働きがいのある職場づくりを目指しています。その一環として、「人事方針」を定め、これを元に人材育成施策を推進しています。

》》 人事方針

エフ・シー・シーは、人材育成が企業の継続的成長の源と考え、働く人の能力を高め、多様性、人格、個性が尊重される働き方を実現します。

人事評価制度

公平で納得感の高い評価・処遇を通じて、会社への貢献と積極的に挑戦する従業員に報いることを目的に、2020年に人事評価制度を改定しました。新制度では、マネジメント層・リーダーシップ層・育成層のそれぞれに期待される役割行動を明確化し、個人の目標管理を通じた評価・指導・フィードバックを充実させています。従業員が意欲高く能力を発揮し、積極的に課題にチャレンジできる職場環境を整え、企業の成長の源である人材を継続的に育成し、強い人的基盤の構築を目指していきます。

評価マネジメント研修

人事評価制度改定にあたり、すべての管理監督者を対象に評価マネジメントの意義・手法を学ぶ研修を実施しました。今後も新任の管理監督者向けの研修を継続的に開催し、制度趣旨の浸透と適正な制度運用につなげていきます。

ダイバーシティミーティング

F.C.C.VISION 2035に掲げる「新しい価値を指向する企業文化の構築」に向けて、FCCでは議論体質の進化も重要であると考えており、価値観や考え方の違う相手との円滑なコミュニケーションと協働に役立つ、議論の進め方の手法を学ぶダイバーシティミーティング研修を開催しています。国内外のステークホルダーや、同僚との良い話し合い・良いコミュニケーションから今までにないアイデアやアウトプットが創出されていくよう、継続的な開催を通じて議論体質の進化に繋げていきます。

階層別研修／オンライン研修

各等級に求められる知識・能力の向上に向け、入社時や昇格時などの節目を中心に、新入社員研修やマネジメント系の研修などを実施しております。従来の研修プログラムは、対面での集合研修が中心でしたが、コロナ禍でも従業員の学びの機会がしっかりと確保できるよう、2020年からオンライン研修を導入しております。コロナ禍では今後もオンラインの活用を推進しつつ、将来的には、対面とオンライン研修それぞれの特徴を踏まえながら、棲み分けを行っていきます。

	階級別	領域別				OJT	自己啓発		
部長級	管理職研修 昇格時研修	品質教育	安全教育	環境教育	ビジネススキルアップ研修	海外赴任前研修	部門内教育プログラム	英語スキルアップ	資格取得支援
課長級									
主任級	昇格時研修								
一般	若手社員 スキルアップ研修 入社時研修								

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて
環境マネジメント
環境教育とコミュニケーション
地球温暖化対策の取り組みの成果
省資源／環境負荷物質管理の取り組み
環境データ

社会

品質
取引先との関係
人材育成
人権の尊重
多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
安全衛生管理
健康経営
社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制
コンプライアンス
リスクマネジメント
情報セキュリティ

人権の尊重

考え方・方針

従業員の行動規範である「企業行動憲章」に人権尊重とハラスメント防止に関する基本的な考えを明記し、教育・啓発活動を行っています。法令遵守はもとより、人種・民族や国籍、宗教、性別、年齢等により不当な差別を行わないこと、いかなるハラスメントも許さないことも明記しています。

>> 人権尊重方針

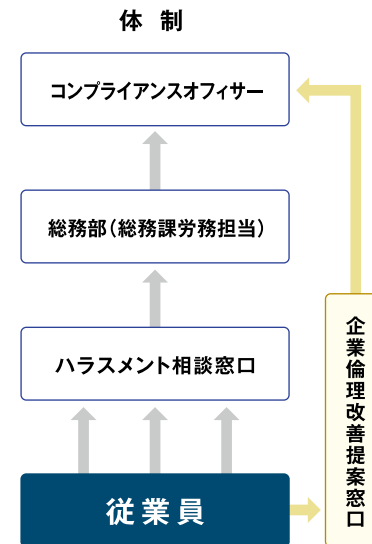
エフ・シー・シーは、人権とは普遍的な概念であることを理解するとともに、国際的に宣言されている人権の保護を支持し、人々の人権を尊重した企業活動を行います。

ハラスメント教育・啓発活動

ハラスメントを防止するために、人権尊重方針に基づく「個」の尊重の実践という観点から、お互いに個の違いを認め合い尊重するだけでなく、一人ひとりがこの問題に取り組み、正しく理解し、行動できるよう教育・啓発活動を行っています。

ハラスメント防止体制

社内相談窓口として、コンプライアンスに関する相談や内部通報を受け付ける「企業倫理改善提案窓口」と、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどのハラスメント全般の窓口として「ハラスメント相談窓口」を設置しています。各相談窓口は、社内イントラネットや全社掲示板に明示し、その存在が誰でも分かるようになっています。なお、相談内容の秘密厳守はもちろん、通報・相談したことによる相談者への不利益な取り扱いの禁止についても定め、相談者の保護を図っています。



理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて
環境マネジメント
環境教育とコミュニケーション
地球温暖化対策の取り組みの成果
省資源／環境負荷物質管理の取り組み
環境データ

社会

品質
取引先との関係
人材育成
人権の尊重
多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
安全衛生管理
健康経営
社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制
コンプライアンス
リスクマネジメント
情報セキュリティ

社会 | 多様な働き方の実現と多様な人材の活躍推進

多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進

考え方・方針

持続可能な社会を実現していくためには、多様な人材がより幅広い視野でのサービスの提供や、より多角的な視点での意思決定が必要と考えます。性別、年齢、国籍、人種、宗教、価値観などの多様性（ダイバーシティ）とそれを包摂（インクルージョン）する職場づくりを推進することで、生産性の向上と企業の成長につながるものと考えています。

多様な働き方の実現

従業員一人ひとりが働きがいを感じ活躍するためには、仕事と生活（暮らし）のバランスがとれていることが大切と考えます。多様な価値観や背景をもつ人材が定着し生産性を向上させるため、ワークライフバランスや働き方の選択肢を充実させる取組みを進めています。

ワークライフバランスの推進

長時間労働削減への取組み

長時間労働・過重労働を防止するために、労使による「労働時間管理委員会」や定時退勤日の設定によって、総労働時間の短縮に取り組んでいます。

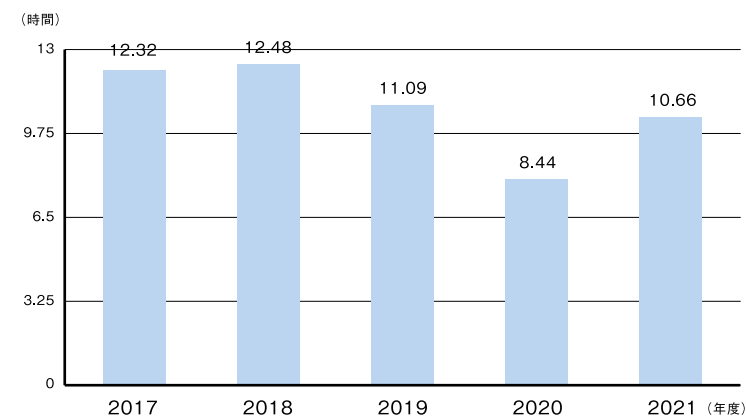
有給休暇の取得促進

有給休暇取得の積極的な働きかけを行い、有給休暇取得率は非常に高い水準となっています。また一般的な有給休暇に加え、育児や介護を目的とした特別休暇の取得や、一定の勤続年数を向かえた従業員にリフレッシュ休暇を設けるなど、ワークライフバランスの実現に向け、一人ひとりが働きやすい職場環境を整備しています。

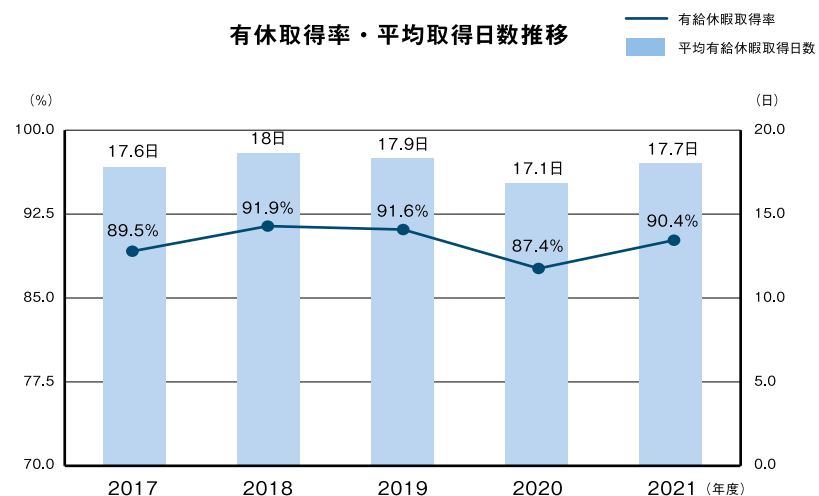
労使対話

結社の自由・団体交渉権に関する権利を支持し、管理職を除く全従業員が組合員となる「エフ・シー・シー労働組合」が組織されています。労使相互の信頼関係をもとに好循環を生み出すことを基本とし、良好な労使関係を構築するため、互いの立場を尊重し、労使懇談会、労使協議会を定期的開催し、働きやすい職場づくりを目指しています。

時間外労働時間推移



有休取得率・平均取得日数推移



理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて
環境マネジメント
環境教育とコミュニケーション
地球温暖化対策の取り組みの成果
省資源／環境負荷物質管理の取り組み
環境データ

社会

品質

取引先との関係

人材育成

人権の尊重

多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進

安全衛生管理

健康経営

社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制

コンプライアンス

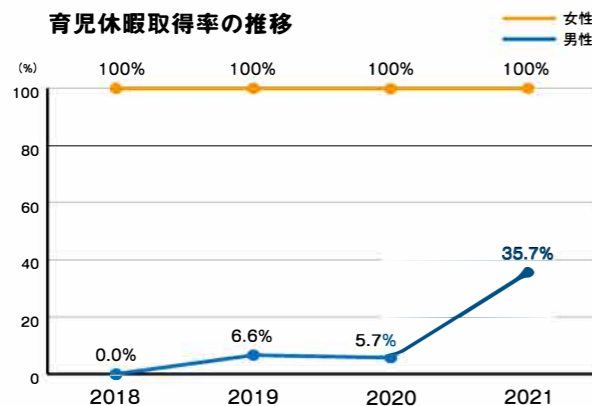
リスクマネジメント

情報セキュリティ

社会 | 多様な働き方の実現と多様な人材の活躍推進

子育て支援の取り組み

2019年1月にくるみマークを取得し、子育てサポート企業として「育休相談窓口」を設け女性・男性問わず社内制度の周知や相談を行い利用しやすい環境整備を行うとともに、社内報などを活用し女性従業員だけでなく男性従業員も育児に参加する喜びなどを紹介し、男性の育児休業取得促進に取り組んでいます。



外国人の登用

外国人の登用については、グループ全体で海外10カ国に展開しており、海外拠点におけるマネジメント層には現地従業員を登用しております。

障がい者雇用

地域の特別支援学校や就労支援施設と連携した職業体験やトライアル雇用を通じて、雇用の拡大に積極的に取り組んでいます。また、各種支援ツールの活用等により、障がいを持つ従業員が働きやすい環境の整備も進めています。

定年後の再雇用（シニア活躍推進）

60歳で定年を迎えた後も就労を希望する場合には、希望者全員に対して最長65歳まで就労の機会を提供する再雇用制度を設けています。定年後もモチベーション高く安心して働けるよう、継続的に環境整備や待遇面の見直しを進めています。

多様な人材の活躍推進

多様性、人格、個性が尊重される働き方ができるよう、安全で働きやすい職場づくりを推進しています。国籍、性別、年齢、障がいの有無、性自認や性的指向などを問わず、意欲と能力のある人材が育児や介護、疾病など様々な事情を抱えても十分に能力が発揮できるような職場環境の実現に向けた取り組みを行っています。

中途採用者

中途採用者の登用については、従来から中途採用を積極的に行ってきたこともあり、管理職に占める中途採用者の割合は全社員に占める中途採用者の割合と同程度であり、既に十分な水準にあるものと認識しております。

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源/環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

社会 | 安全衛生管理

安全衛生管理

考え方・方針

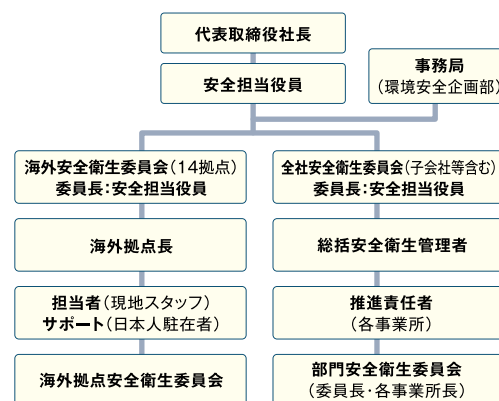
安全で健康的な労働環境の維持・向上を企業経営における重要課題の一つと捉え、安全衛生管理の仕組みづくりだけでなく、従業員一人ひとりの安全衛生意識の高揚に努め、安心して働くことができる職場づくりを目指しています。

》》 安全衛生方針

エフ・シー・シーは、安全衛生活動を企業経営の基盤と考え、当社で働く人及び地域社会の安全・健康に及ぼす影響が最小限となるよう安全衛生管理を徹底し、「健康で災害のない明るい職場」を目指します。

安全衛生管理体制

安全担当役員を委員長とし、国内拠点は全社安全衛生委員会、海外拠点は海外安全衛生委員会を中心とした体制を定め、法規制・諸制度を考慮し、労働災害防止、健康障害防止、健康維持増進および衛生の活動に取り組んでいます。また、国内においては、各拠点ごとに、総括安全衛生管理者を委員長とした安全衛生委員会を定期的に開催し、活動状況の管理や各種調査、審議、意見交換を実施しています。



労働安全衛生マネジメント

労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)準拠により国内、海外の社内体制を構築し、PDCAサイクルを運用することで、充実した安全衛生活動を実施しています。活動の評価・検査として、国内拠点、海外拠点とも、内部監査員が三現主義で監査を行い、不安全箇所、不安全行動の是正や具体的な改善の提案をしています。

マネジメントレビュー

安全衛生活動に対する、マネジメントレビューを毎年行い、仕組みの見直し、次年度の活動方針に反映しています。また、2013年度からは国内拠点にて、年2回の活動実績確認会を実施。社長と安全担当役員が各事業所に赴き、活動状況の現場確認を行っています。

職場安全教育

「法令遵守」と「労災・火災撲滅」を目標に掲げ、安全に関する教育を「階層別」、「職能別」、「一般」の3つの種類に分け、安全教育体系に従って、一般従業員から安全エキスパートまで、「育てる」教育を実施しています。また作業内容に関わる教育訓練では、「頭」で「危険」を理解し、「体」で「安全を確保する行動をとる」を身に付けるため、「座学」だけでなく「道具を使って五感で」または「現場で実際に」を心掛けた「感性」に響く職場安全教育を実施しています。

危険体感教育の実施

日常の生産活動において、一般的に発生しやすいとされている災害事例を疑似体験する、危険体感教育を2013年度から導入しています。危険感受性(危険に対する敏感さ)を高め、労働災害ゼロを目指し、安全意識を高めることで災害の未然防止を図っています。教育の開始から、受講者総数は1,500人を超えました。



クレーンのワイヤー挟まれ体感教室

FCC 設備安全基準

法的要求事項とFCCが定めた安全衛生に関するルールを盛り込んだ「FCC Safety Standard」を制定し、従業員が安全に作業できるようにしています。

2019年度より日本語に加え、英語、中国語に翻訳した「FCC安全ブック」を作成し、海外拠点の現地従業員を含む、グループ全体でルール共有および定着・促進するため、全拠点に配布しています。今後も、リスク低減のため、安全衛生基準のモデルライン化と実施検証を重ね、ワーキンググループ活動を通し現場の声を取り入れながら、FCC Safety Standardのさらなる定着・改善を図っていきます。

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて
環境マネジメント
環境教育とコミュニケーション
地球温暖化対策の取り組みの成果
省資源/環境負荷物質管理の取り組み
環境データ

社会

品質
取引先との関係
人材育成
人権の尊重
多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
安全衛生管理
健康経営
社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制
コンプライアンス
リスクマネジメント
情報セキュリティ

社会 | 健康経営

健康経営

考え方・方針

従業員一人ひとりが健康に生き活きと活躍し、企業業績と生産性の向上を目的に、「健康宣言」に基づき、従業員の健康維持・増進に向けた取り組みを行っています。

>> 健康宣言

FCCグループは、従業員一人ひとりが明るく楽しく元気よく、風通し良く助け合える明るい職場づくりを目指し、すべての従業員が、安全で健康に働けることを目的に、健康活動に取り組みます。

健康経営の取り組み

1. からだの健康

従業員が健康で活躍するために、生活習慣病の予防と健康への意識向上を目指します。

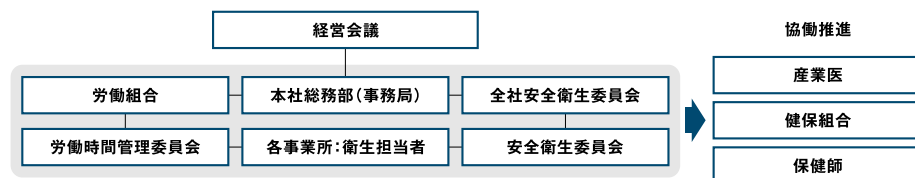
2. こころの健康

ストレスチェック結果の職場単位分析から、職場と一体となって職場環境の改善に努めます。

3. 働き方改革

労使にて、時間外労働時間の低減を図ると共に、有休取得率を向上させ「ワークライフバランス」を推進します。

実施体制



取組実績

健康診断・メンタルヘルスケア

一般定期健康診断の受診率100%を目標に一部法定以上の健診項目を加えた健康診断を実施しています。診断結果に基づく事後措置についても、就業時間中の再検査などを実施することで再検査受診率を向上させ、予防措置に取り組んでいます。また、従業員の心の健康についても、厚生労働省の指針に基づいたストレスチェックを実施しており、希望者には産業医面談を通じた疾患予防に努めています。

項目	数値	備考欄
定期検診受診率	100%	2021年度実績
精密検査受診率	92.10%	2021年度実績
ストレスチェック受検率	96.60%	2021年度実績

ウォーキングラリーの実施

健康保険組合や労働組合と協働して毎年秋にウォーキングラリーを実施しています。健康情報ポータルサイトを活用し、運動習慣の定着を目指しています。



女性向け健康セミナーの開催

女性特有の健康課題に対する知識向上や職場上司の理解度向上を目的に、全女性従業員向けや全管理職向けに教育を実施しています。婦人科検診の各種補助についても周知をしたり、保健師による相談窓口の設置も行っております。



その他の取組実績

- ・過重労働の防止(長時間労働防止)
- ・ヘルシーメニューの導入
- ・インフルエンザ予防接種
- ・特定保健指導
- ・喫煙対策

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

社会 | 社会貢献活動

社会貢献活動

考え方・方針

企業市民の一員として、豊かな社会の実現を目指し「次世代育成支援」「地域社会との共存共栄」「地球環境の保全」「交通安全への貢献」の4つの軸で、企業として、社会にできる活動とは何かを考え、地域貢献を行ってまいります。

》》 社会貢献方針

エフ・シー・シーは、良き企業市民として、地域と共に、次の世代を担う人材の育成と豊かな社会づくりに努め、社員一人一人の主体的な社会貢献活動を支援します。

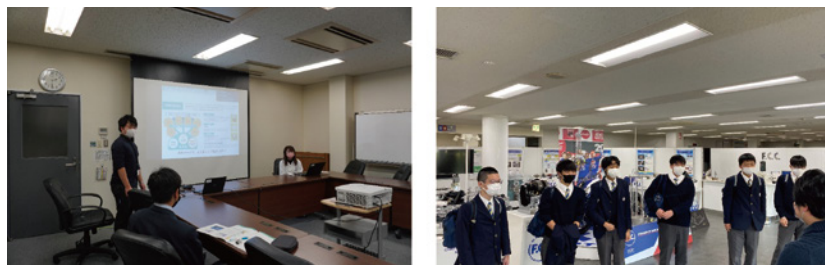
国内の取り組み

静岡県浜松市



キャリア教育、会社見学の受け入れなどの教育支援活動

学生のうちから自身の将来(キャリア)を考えていただきたく、地元中学・高校へ社員が訪問し、学生自身がどのような職種・分野に適性があるか、ワークを用いたキャリア教育を実施しました。また、会社見学を受け入れFCCの事業内容や社会とのつながりについて知っていただく機会を提供しています。



各事業所



世界環境デー清掃活動

毎年6月5日の「世界環境デー」に合わせて、各事業所ごとに企画して清掃作業などを実施し、18年になります。具体的な活動として、各事業所の周辺道路や公園、近隣住宅地の清掃作業(草刈り・側溝掃除・ゴミ拾い)などに取り組んでいます。



三重県鈴鹿市



鈴鹿市社会福祉協議会への保存食寄付

鈴鹿工場で備蓄している保存食(カレーライス300食)の保存期限切れが近くなり、処分先を検討している際に、三重県社会福祉協議会のワーキングにWeb参加しヒントを得たことから、鈴鹿市社会福祉協議会に相談。ニーズにマッチしたことで有効活用につながりました。



理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

社会 | 社会貢献活動

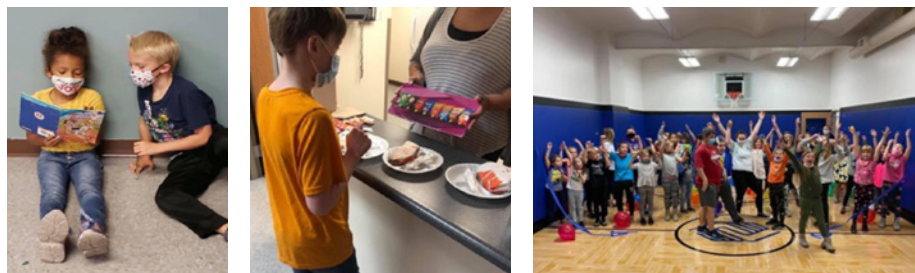
海外の取り組み

FCCアダムス／アメリカ合衆国 インディアナ州



アダムズ郡のボーイズ&ガールズクラブの活動を支援

地元の子どもたちが安心して過ごせる放課後クラブの支援を実施しています。クラブでは食事や子どもたちの成長に必要な学びを提供しています。

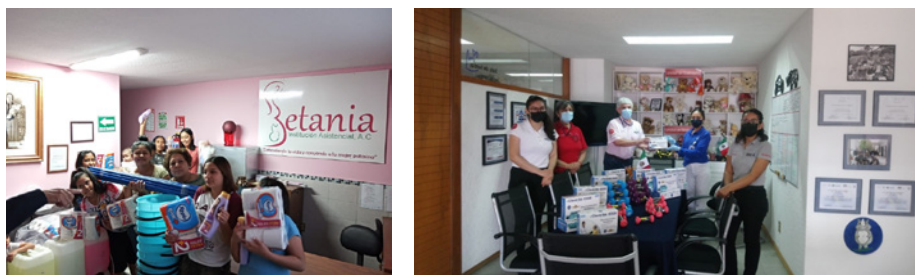


FCCメキシコ／メキシコ サンルイスポトシ州



社会的・経済的弱者を支援する団体への寄付

定期的に(およそ月1回程度)子どもやお年寄り、社会的・経済的弱者を支援する団体への寄付活動をしています。母子家庭や孤児院、DV被害者支援、視覚障がい者、難民・移民者支援など、支援先は多岐にわたり、それぞれのニーズにマッチする寄付や物資の支援活動を続けています。



サンルイスポトシ州の母子家庭支援機関への衛生用品と食品の寄付

サンルイスポトシ州にある火傷を負った子供たちの治療・リハビリを行う施設 RINO-Qに血圧計19個、鉄アレイ15個を寄付

FCCブラジル／ブラジル アマゾナス州



路上で援助を求める経済的弱者への食糧支援

12月に従業員向けに配給したクリスマスキット(食料品)の余剰分を、マナウス市内の路上で経済支援を求めている多くの経済的弱者たちに直接手渡しし、分かち合いました。毎年行われている定例的な地域貢献の枠を超えた新たな活動をすることで、SDGsの意義を学び感じられました。



佛山富士离合器／中国 広東省



環境保護のためのゴミ拾い活動

年1回、地元の仙湖公園のゴミ拾いや環境美化活動を4年間継続しています。2021年5月の活動には社員15人が参加しました。



- 理念体系
- 目次・編集方針
- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業概況
- 価値創造プロセス
- 特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

社会 | 社会貢献活動

海外の取り組み

台湾富士離合器 / 台湾 台南市



台南市春季海岸清掃活動

台南市政府環境保護局が開催する海岸清掃活動に、従業員とその家族16人が参加。FCC台湾では6年前から従業員有志で参加し、従業員同士のコミュニケーションと環境保護の意識向上につながっています。



FCCベトナム / ベトナム ハノイ市



緑豊かな工場環境作り

工場敷地内への植樹、グリーンカーテンの設置、工場事務所棟内への植物の設置を行うことで、工場緑化を推進。コロナ禍での職場環境改善、夏場の暑さ対策の実現に向けて活動を展開しています。

FCCインドネシア / インドネシア カラワン県



カラワン地区のコロナ感染防止活動に参加

カラワン政府が定期的実施するコロナ感染防止活動に参加。マスク100ボックスと消毒アルコール40ジェリカンを寄付しました。



FCCフィリピン / フィリピン ラグナ州



地域の企業と連携した植林活動

地球温暖化や自然災害から人々を守るため、工業団地主催で実施する植林活動に参加しています。他の企業との連携強化や、地域住民とも交流が図れる活動として定着しています。



- 理念体系
- 目次・編集方針
- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業概況
- 価値創造プロセス
- 特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源 / 環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

ガバナンス

Governance

コーポレートガバナンス体制
 コンプライアンス
 リスクマネジメント
 情報セキュリティ

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて

環境マネジメント

環境教育とコミュニケーション

地球温暖化対策の取り組みの成果

省資源／環境負荷物質管理の取り組み

環境データ

社会

品質

取引先との関係

人材育成

人権の尊重

多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進

安全衛生管理

健康経営

社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制

コンプライアンス

リスクマネジメント

情報セキュリティ

ガバナンス | コーポレートガバナンス体制

コーポレートガバナンス体制

取締役会

取締役会は7名(うち、社外取締役5名)で構成され、法令に定められた事項および重要な業務執行を決定するとともに、取締役の職務の執行を監督しています。

監査等委員会

監査等委員会は、監査等委員である取締役4名(うち、社外取締役3名)で構成され、監査等委員会が定めた監査方針、監査計画および業務分担等に従い、取締役会その他重要な会議へ出席し、業務および財産の状況の調査等を通じて取締役の職務の執行や内部統制システムの整備および運用状況について監査、監督を行っています。

会計監査人

監査法人保森会計事務所による会社法および金融商品取引法に基づく会計監査を受けています。

監査部

監査等委員会の職務を補助する組織として監査部を置いており、業務の有効性および効率性、財務報告の信頼性、事業活動に関わる法令等の遵守、資産の保全を目的に、FCCグループ全体の内部統制の整備および運用状況について監査を行っています。

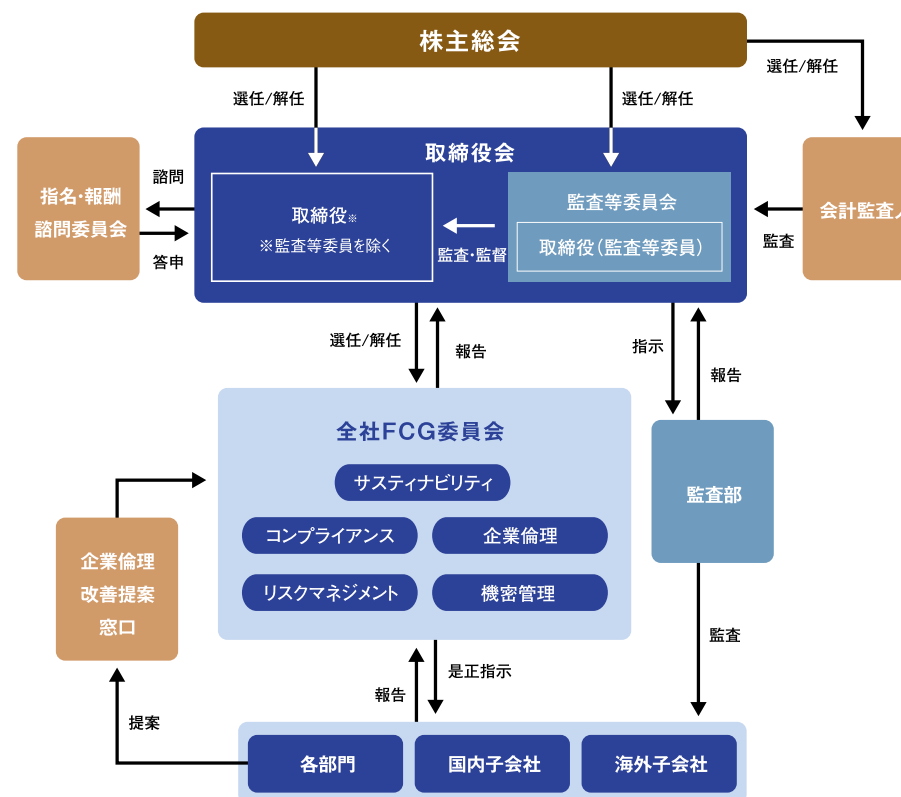
指名・報酬委員会

取締役の指名や報酬に係る取締役会の機能の独立性、客観性および説明責任を強化し、コーポレートガバナンスの充実を図るため、取締役会の任意の諮問機関として設置しています。

全社FCG (FCCコーポレートガバナンス) 委員会

FCCグループで発生した、コンプライアンスや企業倫理事象、経営上のリスクに加え、サステナビリティに関する事項を審議・確認する委員会として設置し、取締役及び執行役員で構成されています。

コーポレートガバナンス体制図



理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

- カーボンニュートラル実現に向けて
- 環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源/環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

ガバナンス | コンプライアンス

コンプライアンス

コンプライアンス推進体制

コンプライアンス、企業倫理に関する取組みを推進する管理責任者として、コンプライアンスオフィサーを執行役員より選任しています。

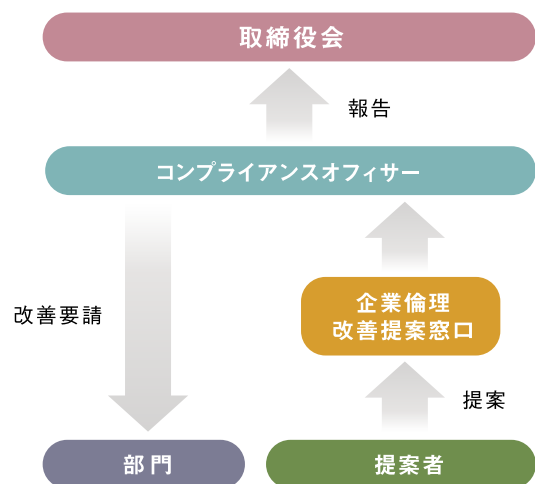
全社FCG委員会において、コンプライアンス、企業倫理の領域に関しては、コンプライアンスオフィサーが委員長を務め、FCGグループ全体におけるコンプライアンスの方針の策定や審議を行っています。

企業倫理改善提案窓口

事業ユニット(部門)に潜在している法律違反、倫理行動違反等の早期発見と再発防止のため、FCGグループで働く全ての人々からの企業倫理に関する提案を受け付ける「企業倫理改善提案窓口」を設置しています。提案した者および提案内容に関する事実関係の確認に協力した者への不利益な取り扱いを禁止することによって提案者等の保護を徹底し、匿名での提案も受け付けています。

企業行動憲章

従業員の行動規範として、企業行動憲章を作成し、FCGグループで働く従業員に啓発を行っています。一人ひとりが、本憲章を理解し、積極的に実践することで、FCGグループは法令遵守を始めとした、社会的役割と責任を果たします。



コンプライアンス教育・啓発の実施

コンプライアンス教育

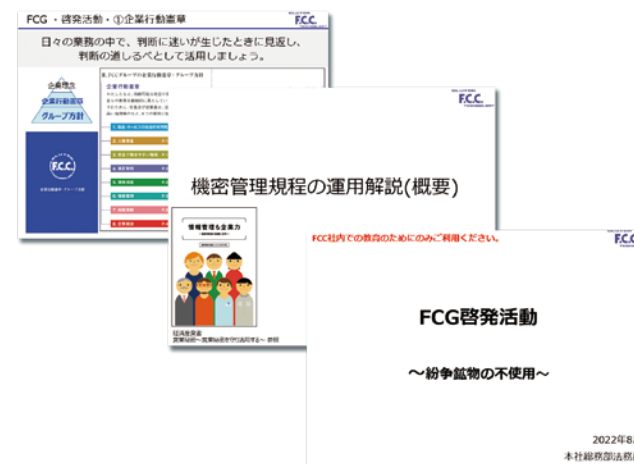
入社時、管理職登用時、海外赴任時に、FCGのコーポレートガバナンスを理解してもらうための教育を行っています。その中で、法令や、企業行動憲章を遵守することの重要性を認識してもらい、日々の業務でコンプライアンス違反が生じないよう、自覚を持って行動するよう促しています。

個別テーマ教育

毎年全従業員に対し、適正取引(腐敗防止、競争法等)、ハラスメント防止、情報管理(機密管理、個人情報保護)の社内啓発を行っています。それに加えて、知的財産、紛争鉱物等、必要に応じて、適切な範囲で啓発を実施しています。

子会社への教育

上記の啓発資料を、子会社へも適宜共有し、グループ全体のコンプライアンス教育を実施しています。



理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて

環境マネジメント

環境教育とコミュニケーション

地球温暖化対策の取り組みの成果

省資源/環境負荷物質管理の取り組み

環境データ

社会

品質

取引先との関係

人材育成

人権の尊重

多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進

安全衛生管理

健康経営

社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制

コンプライアンス

リスクマネジメント

情報セキュリティ

ガバナンス | リスクマネジメント

リスクマネジメント

リスクマネジメント推進体制

経営上のリスクについては取締役会で認識、評価し、管理責任者として、リスクマネジメントオフィサーを取締役より選任しています。また、全社FCG 委員会を設置しており、リスクマネジメントの領域に関しては、リスクマネジメントオフィサーが委員長を務め、リスクマネジメントを統括する組織として、FCCグループ全体の日常の業務におけるリスクおよび組織横断的なリスクの管理を行っています。

事業継続計画 (BCP) の取組み

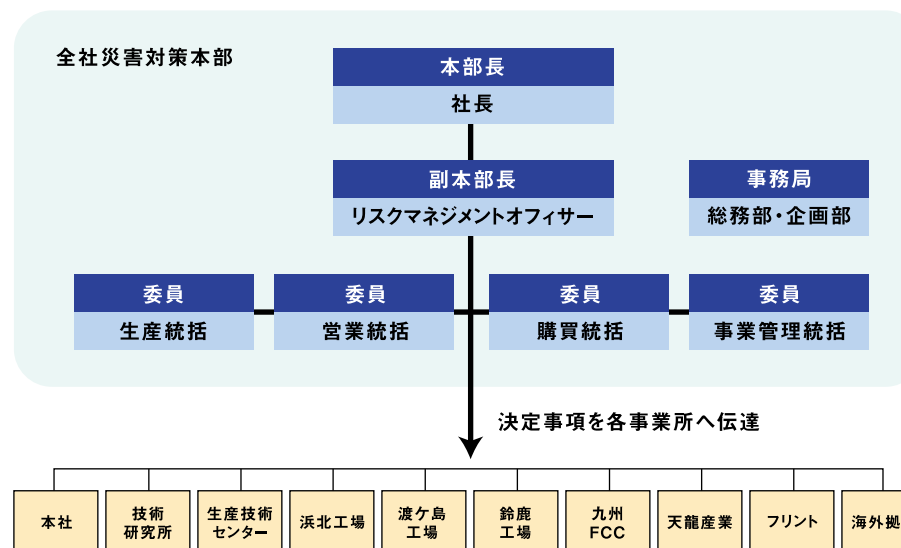
FCCでは企業としての社会的責任を認識し、大規模な災害が発生して困難な状況にあっても、製品の供給を早期に復旧し、ステークホルダー（顧客、取引先、地域社会、株主、従業員など）の利益を守っていくために、BCPを策定し、その計画を実施・維持・管理しています。

特に、100年から150年の間隔で繰り返し発生してきた大規模地震、南海トラフ地震を想定し、「人命第一」を基本に、避難タワーの建設や緊急地震速報システムを活用した避難指示放送の整備、従業員の安否確認システムの導入、定期的な防災訓練を行うことで有事に備えています。

BCPの基本方針

人命第一	顧客及び従業員とその家族の安全を守る。
供給責任	事業の継続または早期復旧を実現することで経営を維持する。
顧客からの信頼	重要顧客の要請に応えるレベルでの業務再開を実現し、当該顧客からの信用を守る。
雇用確保	いち早い業務再開により売上を確保することで従業員の雇用を守る。
地域貢献	早期事業再開により地域の復旧・復興に寄与し、地域経済の活力を守る。また、地域の災害対策支援要請に極力応えるよう努める。
他社との連携	関連企業と相互連携することで、お互いの困りごとを助け合うことで、顧客からの期待に応える。

BCP推進体制



理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

- カーボンニュートラル実現にむけて環境マネジメント
- 環境教育とコミュニケーション
- 地球温暖化対策の取り組みの成果
- 省資源／環境負荷物質管理の取り組み
- 環境データ

社会

- 品質
- 取引先との関係
- 人材育成
- 人権の尊重
- 多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進
- 安全衛生管理
- 健康経営
- 社会貢献活動

ガバナンス

- コーポレートガバナンス体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ

情報セキュリティ

考え方・方針

情報管理方針に基づき、FCCグループ及び顧客、取引先等の機密情報の管理並びに保全に関する措置等を定め、企業機密漏洩の防止、及び企業機密の適正な活用を図ることを目的に機密管理ガイドラインを定め、グループ全体に適用しています。また、日本国内の個人情報保護法をはじめ、欧州で施行されたGDPR (General Data Protection Regulation) など各国の個人情報保護規制に関する法令を遵守するため、「個人情報保護方針」を制定しFCCグループ全体で協力し情報管理のグローバル対応を進めています。

>> 情報管理方針

エフ・シー・シーは、ステークホルダーからの信頼の獲得、競争力の確保のために、情報を適正に保護するとともに、効果的に活用します。また、ステークホルダーとお互いの立場を理解し、重要で信頼性のある情報を、適時に開示します。

情報漏洩防止における対策

物理的・技術的な防御



接近の制御
機密情報に
近寄りにくくする対策

- ・アクセス権の制限
- ・施錠管理
- ・ペーパーレス化



持ち出し困難化
機密情報の持ち出しを
困難にする対策

- ・私用USBメモリの利用・持ち込み禁止
- ・電子データの暗号化
- ・外部へのアップロード制限

心理的な抑止



視認性の確保
漏えいが見つかりやすい
環境をつくる

- ・関係者以外立入禁止看板
- ・職場の整理整頓
- ・パソコンの操作履歴の記録

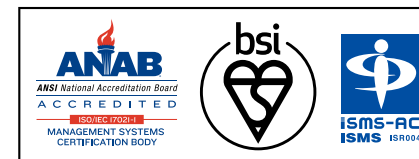


**機密情報に関する
認識向上**
機密情報であることを
明示する

- ・コンフィデンシャル表示
- ・機密保持契約の締結
- ・教育活動の実施

情報セキュリティマネジメントシステムの認証取得

日本国内にて、2022年に外部認証による情報セキュリティマネジメントシステムISO/IEC 27001を認証取得しました。FCCは国際規格に準拠した情報セキュリティマネジメントシステムを確立し、継続的改善を意識することにより、業界トップレベルの情報セキュリティ体制の確立を目指しています。



IS770061/ISO27001 技術研究所 製品技術開発部

サイバーセキュリティ対策

昨今のランサムウェアをはじめとするサイバー攻撃は、自動車産業を取り巻くサイバーセキュリティリスクを深刻化させています。

このような状況を踏まえ、FCCグループ全体としてサイバーセキュリティ対策において、日本自動車工業会(JAMA)、日本自動車部品工業会(JAPIA)の策定するセキュリティガイドライン(v2.0)の準拠を進めており、深刻化するサイバー攻撃に対する事前防御やレジリエンスの強化を図っています。

知的財産に関する教育

知的財産が企業経営にとっていかに重要であるかを理解させ、且つ、知的財産権侵害の危険性を認識させることを目的とし、技術研究所所属全員を対象とした知的財産の基礎教育から戦略的特許出願を目指した開発責任者向けの教育に至るプログラムを実施しています。

理念体系

目次・編集方針

トップメッセージ

会社概要

事業概況

価値創造プロセス

特集

環境

カーボンニュートラル実現にむけて

環境マネジメント

環境教育とコミュニケーション

地球温暖化対策の取り組みの成果

省資源/環境負荷物質管理の取り組み

環境データ

社会

品質

取引先との関係

人材育成

人権の尊重

多様な働き方の推進と多様な人材の活躍推進

安全衛生管理

健康経営

社会貢献活動

ガバナンス

コーポレートガバナンス体制

コンプライアンス

リスクマネジメント

情報セキュリティ

株式会社 **エフ・シー・シー**

〒431-1394 静岡県浜松市北区細江町中川7000番地の36

TEL (053) 523-2400 (代) FAX (053) 523-2405

<https://www.fcc-net.co.jp/>